

会報

第 4 号



公益社団法人 神戸海難防止研究会

THE KOBE MARINE CASUALTY PREVENTION INSTITUTE

表紙写真

和歌山下津港本港区

和歌山県国土整備部
港湾空港局提供

目 次

第7回 月 例 会 概 要

(1) 事業経過報告等.....	1
(2) 講演 「海難防止に関する最近の取り組み状況」	
～海難事例A I Sの活用など～	
第五管区海上保安本部交通部	
交通部長 森 部 賢 治 氏	

第8回 月 例 会 概 要

(1) 事業経過報告等.....	18
(2) 講演 「海事教育の国際貢献」	
神戸大学大学院 海事科学研究科	
教授 古 莊 雅 生 氏	

第9回 月 例 会 概 要

(1) 事業経過報告等.....	27
(2) 講演 「船舶事故等から学ぶ危機管理」	
海技大学校 教授	
航海科長 岩 瀬 潔 氏	

事 業 報 告

平成24年度第8回船積危険品研究委員会	35
平成24年度神戸港港湾計画一部変更に伴う航行安全対策調査委員会.....	37
B社大型原油タンカー船型大型化に伴う航行安全対策調査第1回委員会.....	40
平成24年度第9回船積危険品研究委員会	43
A社LNG船着離桟に係る航行安全対策検討調査第2回検討部会.....	49
大阪湾における交通流交差海域等の安全確保に関する調査研究第2回委員会....	51
B社大型原油タンカー船型大型化に伴う航行安全対策調査第2回委員会.....	54

平成 24 年度津波来襲時の避難船舶二次災害防止対策調査第 2 回委員会	57
B 社大型原油タンカ一船型大型化に伴う航行安全対策調査	
ビジュアル式操船シミュレータ実験.....	60
平成 24 年度近畿四国地方海難防止強調運動推進連絡会議地区推進母体連絡会議..	62
A 社 L N G 船着離桟に係る航行安全対策検討調査第 3 回委員会.....	66
大阪湾における交通流交差海域等の安全確保に関する調査研究第 3 回委員会....	69
平成 24 年度第 10 回船積危険品研究委員会.....	72
B 社大型原油タンカ一船型大型化に伴う航行安全対策調査検討部会.....	74
平成 24 年度津波来襲時の避難船舶二次災害防止対策調査第 3 回委員会	76

会 務 報 告

第 7 回業務運営会議.....	81
第 8 回業務運営会議.....	82
第 9 回業務運営会議.....	83
事 務 日 誌 抄.....	84

第7回 月 例 会 概 要

1 日 時 平成25年1月25日(金)15:00～16:30
2 場 所 神戸市立 こうべまちづくり会館 2階ホール
3 出 席 者 34名
4 概 要

(1) 事業経過報告等

世良専務理事から事業報告及び会務報告が行われた。

(2) 講 演

第五管区海上保安本部 交通部長 森部 賢治 氏により「海難防止に関する最近の取り組み状況」～海難事例とAISの活用など～と題し、講演が行われた。

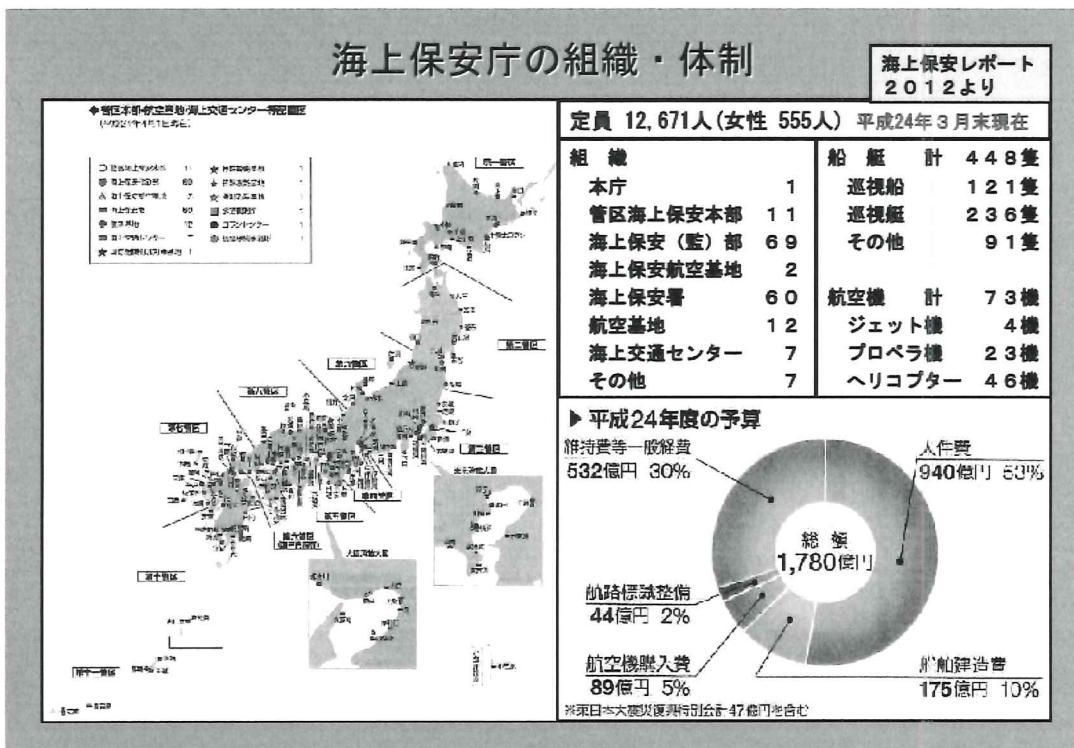
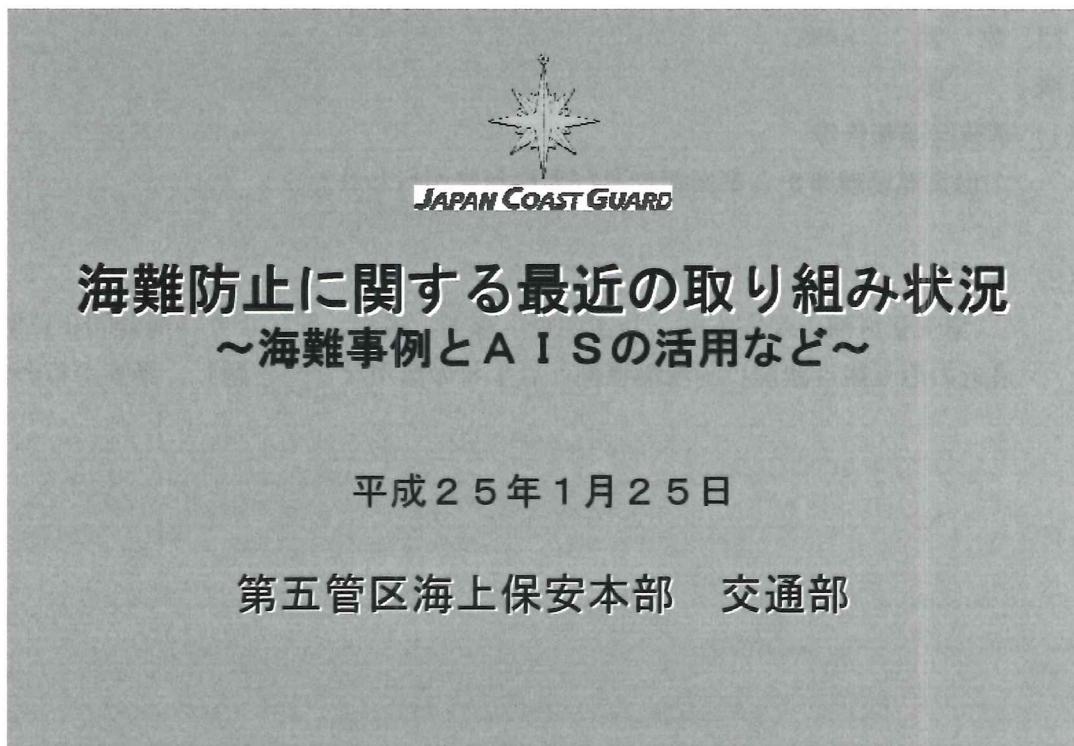
《第7回月例会講演資料》

「海難防止に関する最近の取り組み状況」

～海難事例とAISの活用など～

講師 第五管区海上保安本部

交通部長 森 部 賢 治 氏



第五管区の管轄区域と担任水域

五本部パンフレットより

第五管区海上保安本部は貝塚(日本海側を除く)、海賊、大船、荒磯、和歌山、徳島及び高知各内県の区域並びにその沿岸水域を管轄しております。

沿岸の警備等を実施しています。

五本部の組織

本部長	次長
総務部	
経理補給部	
船舶技術部	
警備救援部	
海洋情報部	
交通部	
企画課	企画課
安全課	安全課
計画運用課	計画運用課
整備課	整備課

海上保安庁の仕事 (その1)

海上保安レポート
2011/2012より

1 治安の確保
法令取締り、テロ対策、密輸・密航・密漁対策等

逃走する台湾漁船に強行接舷を行う巡視艇

3 生命を救う
海難救助、マリンレジジャーの安全推進

転覆漁船内の生存者の確認

2 領海等を護る
領海警備、EEZ等海洋権益の保全

領有権主張活動家の船舶

4 青い海を護る
海洋環境保全対策、海洋環境事犯の摘発

投棄された船舶

海上保安庁の仕事（その2）

海上保安レポート
2011/2012より

5 災害に備える

事故災害対策、自然災害対策



冷却放水する巡視艇

6 海を識る

海洋調査、海洋情報の提供



マルチビーム音響測深

7 交通の安全を守る

海難防止対策、航路標識の保守・運用



明石海峡通航船と航路中央灯浮標

8 海を繋ぐ

関係国との連携・協力、国際機関との連携



国際緊急援助隊

交通部の仕事

五本部パンフレットほか

1 ふくそう海域・港内の航行安全対策

海上交通センター、管制信号所
海上交通安全法、港則法、海上工事作業許可・届



東京湾海上交番センター

運用管制室

2 海難防止対策

海難防止講習会、漁船・ブレーカーボート等訪船指導



安全指導員との訪船指導

海難防止講習会

3 航行安全のための情報提供

沿岸域情報提供システム（MICS）、緊急情報メール配信



沿岸域情報提供システム (MICS)

緊急情報メール配信サービス開始

4 航路標識の整備、管理、保守運用

クリーンエネルギー化、LED化、独立電源化

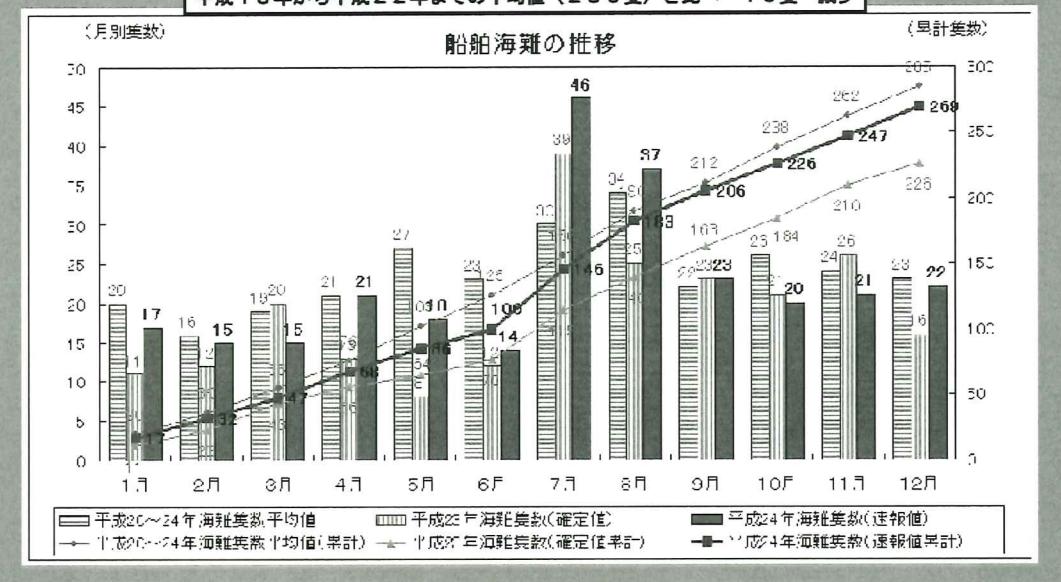


灯台の設置

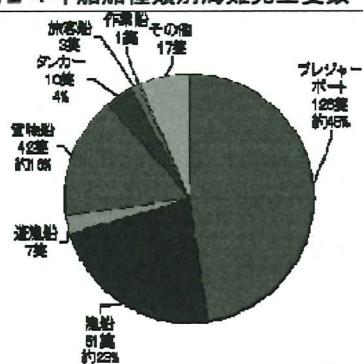
灯台の保守、点検

平成24年の船舶海難発生状況（速報値）

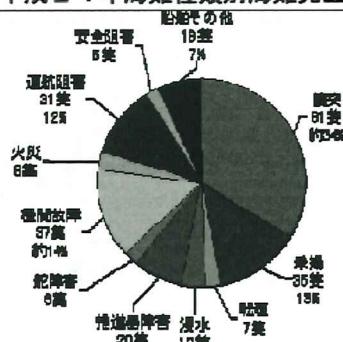
平成24年の船舶海難隻数（速報値） 269隻
 平成23年と比べて 43隻 増加
 平成18年から平成22年までの平均値（285隻）と比べ 16隻 減少



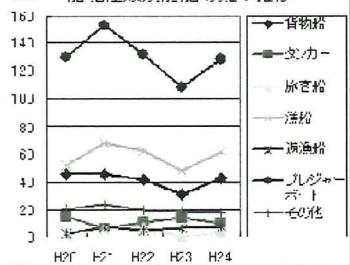
平成24年船舶種類別海難発生隻数



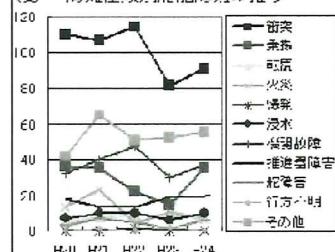
平成24年海難種類別海難発生隻数

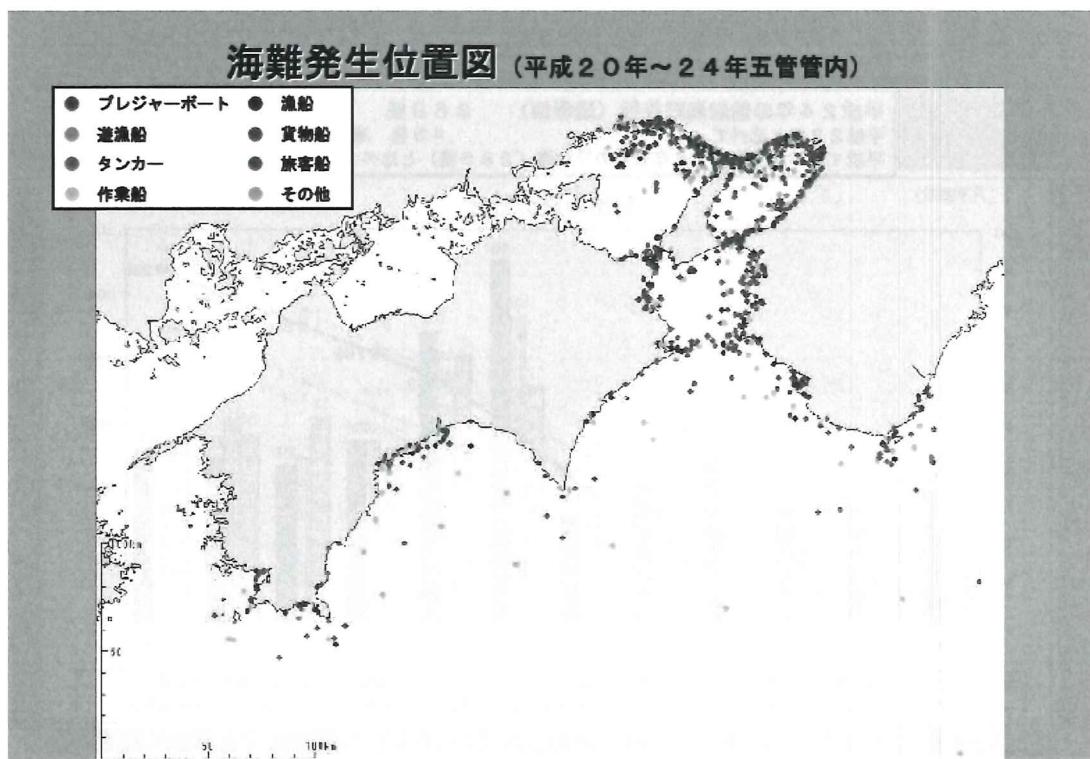


沿岸種類別船舶海難の推移



海難種類別船舶海難の推移





貨物船C号の鳴門海峡乗揚げ事故

発生日時場所：7月7日（土）1255頃 鳴門飛島灯台から41度750m付近海上

船 舶：C号 (1,292トン カンボジア籍 積荷スクラップ956トン 乗員9名) 東京～中国

船 長：36歳 中国人

天 候：曇り 北西の風7メートル 海上平穏 視程良好 南流約8.5ノット

概 要：

- ① 鳴門海峡大橋南側で乗揚げた旨通報。船体は安定し切迫した危険はないことを確認。
- ② 船首を北側に向け乗揚げているが、船体安定、油の流出及び人命異状なし。
- ③ 1755干満により自然離礁したが、舵が故障しており、機関を使用して1835鳴門海峡北側の安全な海域に投錨。
- ④ 調査の結果、鳴門海峡を約8ノットで北上中、主機関シリンダーの排気温度が異常に上昇したため、半速から微速に減速、前進行脚がなくなり、次第に南側に圧流されながら、主機関が停止し乗揚げたもの。乗揚後、乗員により機関修理し、1605復旧。
- ⑤ 10日に潜水調査を実施したところ、船底に6個の破口を認め応急処置したものの舵柱にズレがあり脱落する可能性があることから自力航行不能。
- ⑥ 22日中国向け曳航を開始。30日中国着。

H号スクラップ船火災



発生日時場所：9月27日（木）1900頃 泉北大津南防波堤灯台から273度9, 600m付近海域
船 舶：H号（パナマ籍貨物船 1,999トン 12名乗組み 積荷 スクラップ約1,000トン）

船 長：中国人 41歳 男性

天 候：晴れ 北東の風6メートル 波浪0.5メートル 視程良好

- 概要：① 大阪湾中央の海苔網東側でパナマ船籍貨物船の積荷から出火、救助を求めている、との通報。
② 2218乗組員12名全員を巡視艇に移乗。けが人等なし。巡視船艇による消火活動実施。
③ 28日0435特救隊該船に移乗、曳航索取付け、0440巡視艇により堺泉北鍋地向け曳航開始。消火活動を実施しつつタグ2隻により、堺泉北区スクラップ積み出し岸壁に着岸。スクラップを陸揚げしつつ消防による消火活動を実施し、29日1100鎮火。
④ H号は、25日堺泉北港を中國向け出港、北九州響灘付近で代理店から荷物検査のため戻るよう指示され反転、27日堺沖着、28日入港予定であったが、27日1900頃甲板長が船内を巡回中、右舷船尾部分貨物倉のスクラップから小さな炎が上がっているのを発見、乗組員全員で消火を試みるも鎮火せず救助要請を行ったもの。
⑤ 発火原因については不明であるが、積載したスクラップ貨物の中に、誤って混在したバッテリー、コンデンサー等からの放電出火と推定される。

（国際VHF常時聴守関連）明石海峡での居眠り運航による岸壁への衝突



発生日時場所：平成23年8月19日0440頃 江崎灯台から53度、4400メートル付近海域

船 舶：F号（オランダ籍コンテナ船 9,994トン 乗組員15名）、中国～阪神港大阪区

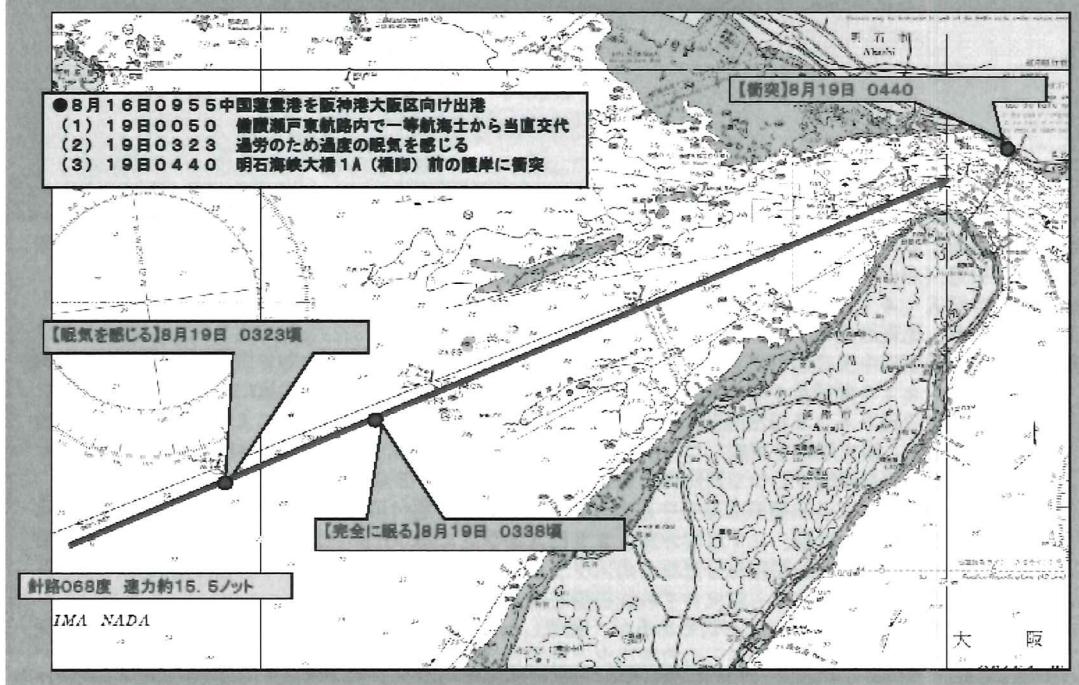
操船者：二等航海士 ウクライナ人 27歳（船長 ロシア人 48歳）

天 候：曇り 西の風5メートル 波高1メートル 視程良好

- 概要：① 0444 F号が明石海峡大橋の北側護岸に衝突したとの通報。

- ② 0450巡視艇現場着。油の流出なし、負傷者、人命異状なし。1726船主手配の曳船により曳き降ろし後、伴走警戒の曳船2隻と曳航開始。2120摩耶埠頭H岸壁に着岸完了。
③ 調査の結果、該船は15日中國連雲港出港、19日0600頃大阪入港予定で、二等航海士1名が当直のもと、播磨灘航路を明石海峡航路向け自動操舵で航行中、居眠りにより明石海峡大橋下舞子公園付近岸壁に衝突したもの。大阪湾海上交通センターは、該船が西航レーンに侵入前の0434頃から衝突に到るまでの間、国際VHF 16chによる注意喚起実施。
④ 該船の損傷状況：フォアピークタンクに漏水、20日船底調査等船体見分の結果、船首船底に破口、亀裂等の損傷。（岸壁損傷状況：約10mに渡り岸壁等が損壊。）

【参考1】F号航海状況及び二等航海士状況



AISの概要

海上保安庁HPより

動的情報

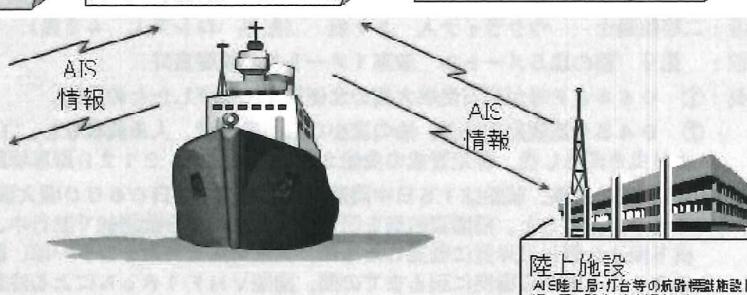
- ・位置情報
- ・UTC(世界標準時)
- ・対地針路
- ・対地速度
- ・船首方角
- ・航海の状態
- ・ROT(回頭率)

静的情報

- ・IMO番号
- ・呼出符号と船名
- ・船の長さと幅
- ・船の種類
- ・測位アンテナの位置

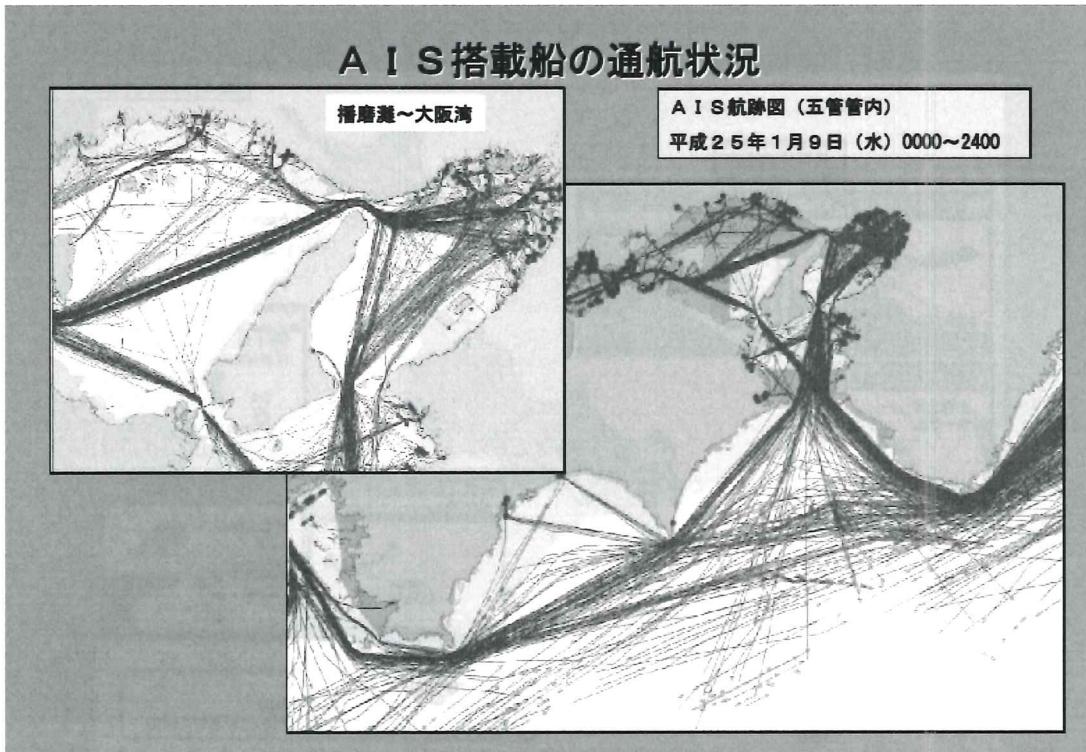
航海関連情報

- ・船の喫水
- ・危険貨物(種類)
- ・目的地
- ・到着予定期刻
- ・航行の安全に関する情報

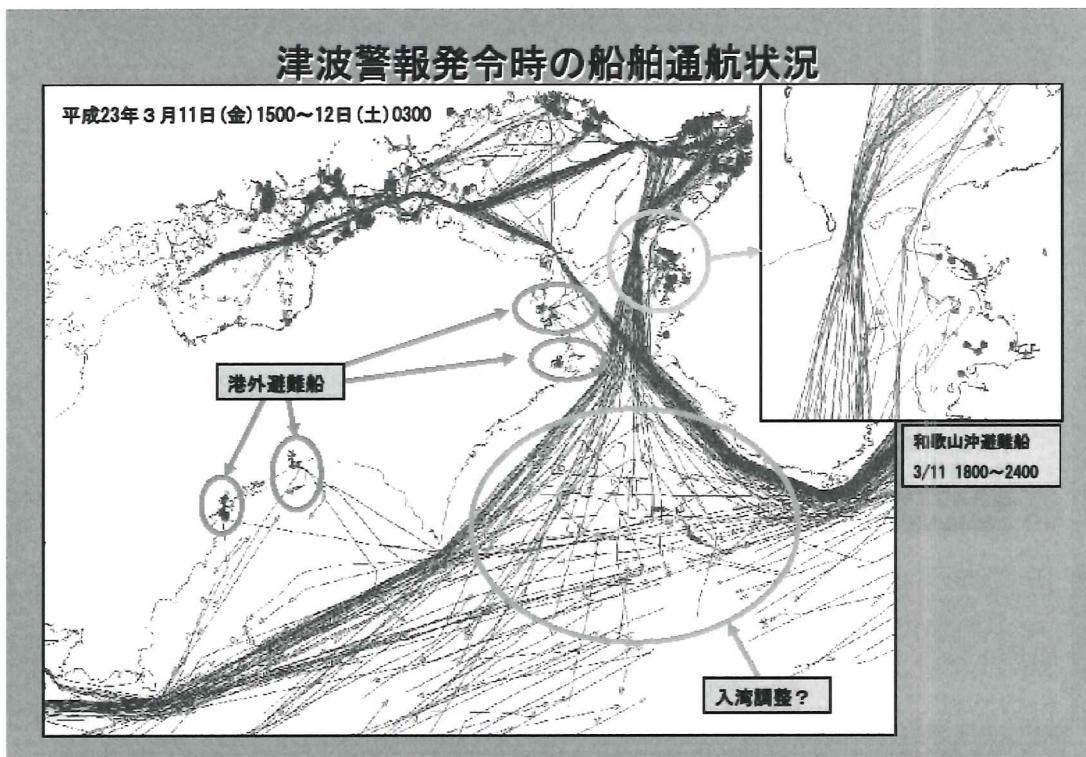


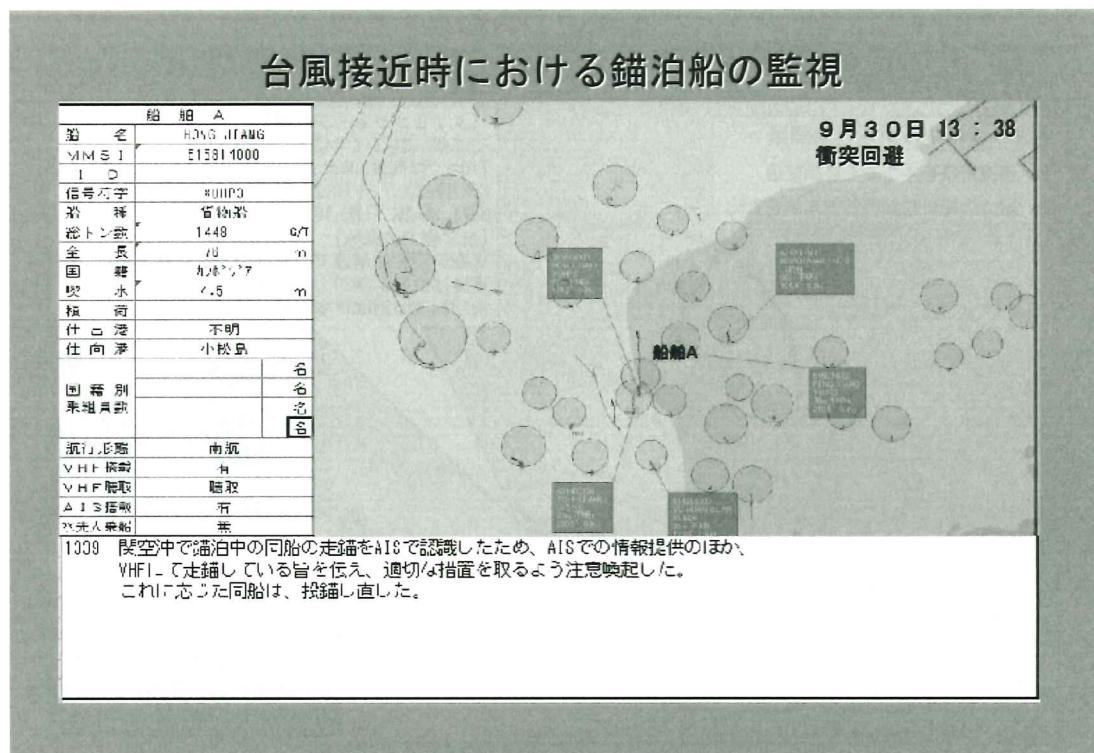
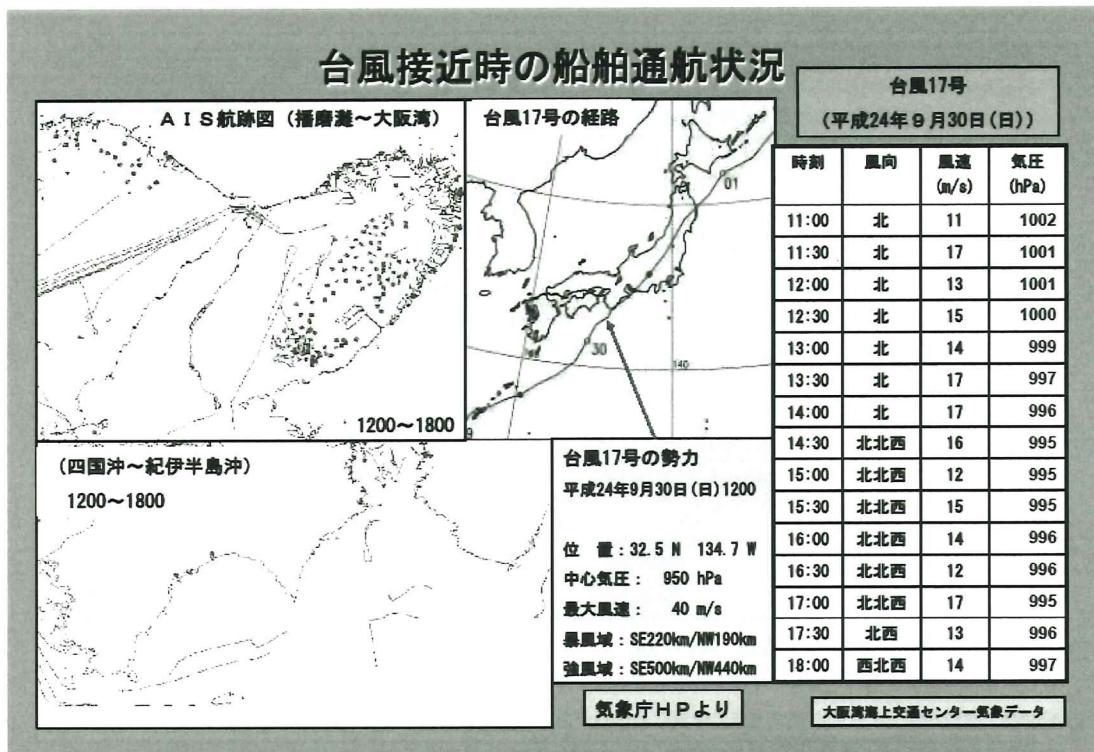


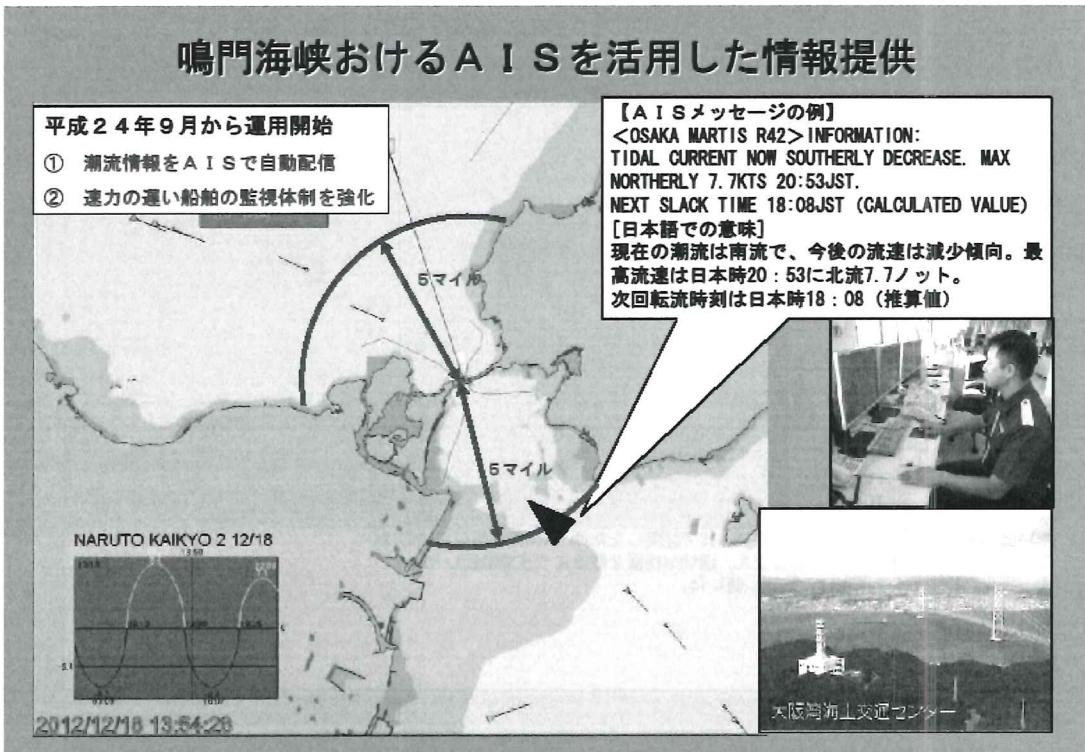
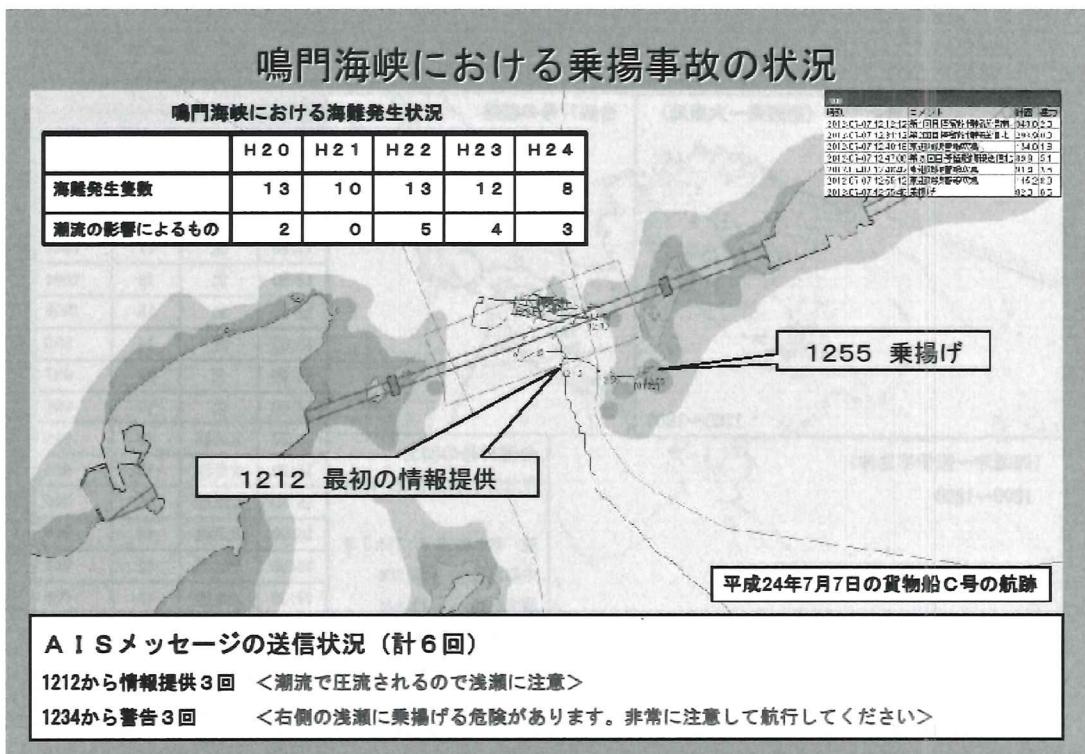
AIS搭載船の通航状況



津波警報発令時の船舶通航状況







AIS応用技術



Class B AIS
小型船用の安価なAIS



AIS-SART
救命艇の位置通報用AIS



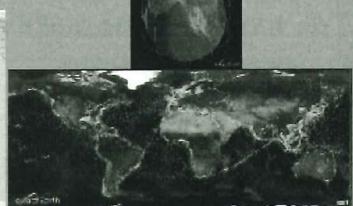
AIS-MOB
落水者の位置通報用AIS



航路標識AIS
航路標識情報の送信

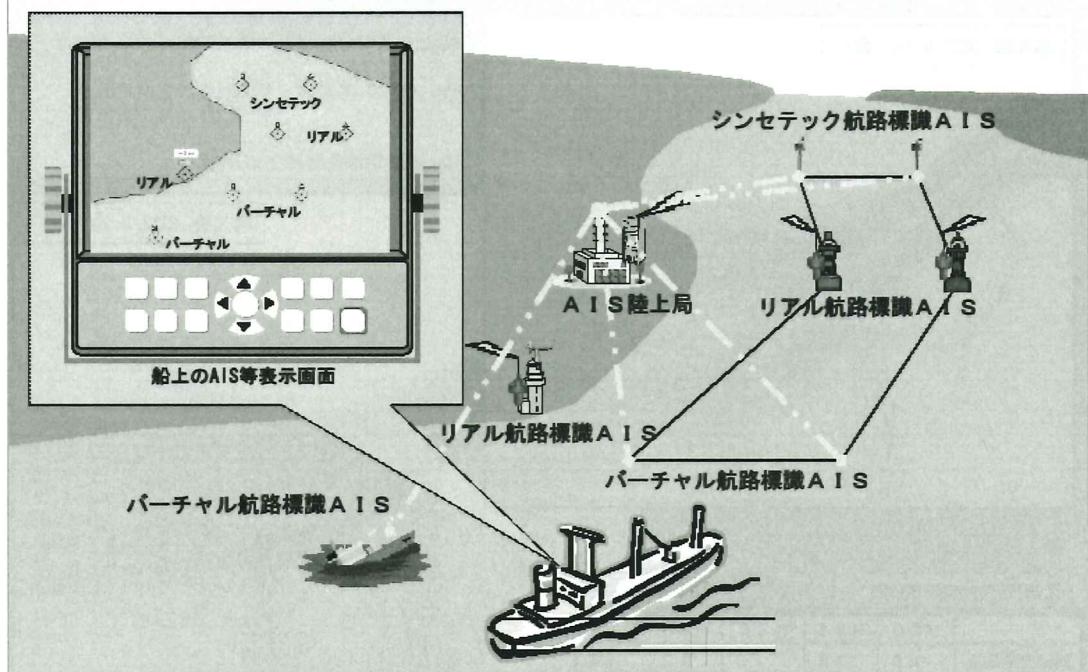


AIS用途特定メッセージ
海上交通情報等の視覚表示用メッセージ



AISの衛星探知
世界的な船舶の動静探知

航路標識AISのイメージ



航路外の海域における航法（経路指定）

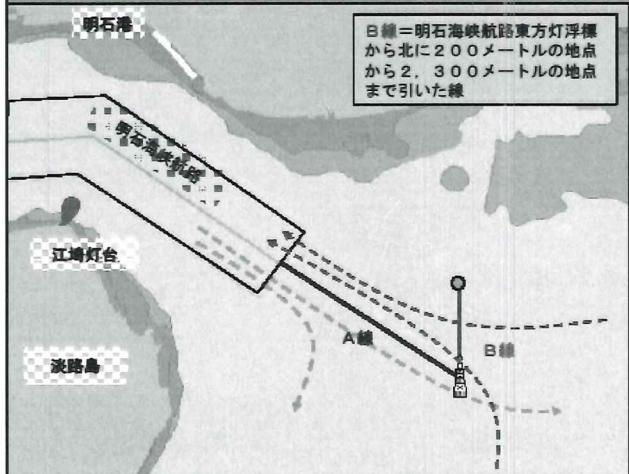
海上交通安全法改正（平成22年7月1日施行）により海域の特性に応じた新たな航法を設定

五管管内では以下の海域に設定

- ① 大阪湾北部海域（神戸港沖）
総トン数500トン以上の船舶
- ② 明石海峡航路西側出入口付近海域
総トン数5,000トン以上の船舶
- ③ 明石海峡航路東側出入口付近海域
長さ50メートル以上の船舶
- ④ 津本沖灯浮標付近海域
友ヶ島水道を航行する船舶
- ⑤ 由良瀬戸付近海域
友ヶ島水道を航行する船舶

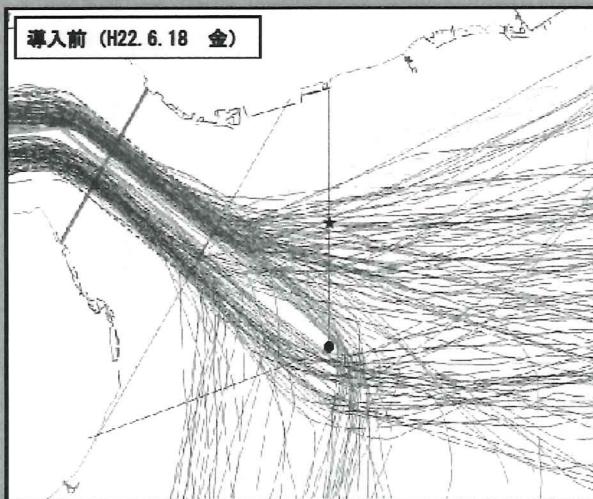
明石海峡航路東側出入口付近海域

日線=明石海峡航路東方灯浮標から北に200メートルの地点から2,300メートルの地点まで引いた線



経路指定前後の交通流の変化

導入前 (H22. 6. 18 金)

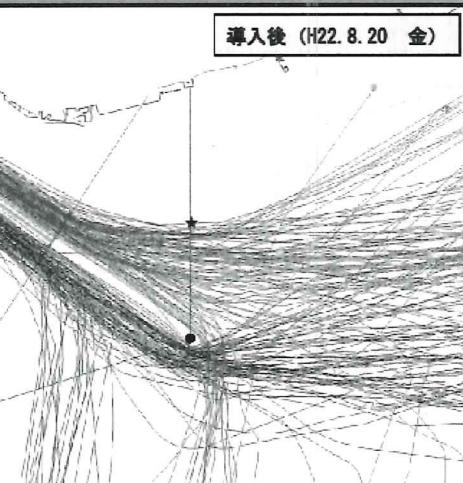


海上交通安全法改正：平成22年 7月 1日施行

★ 仮設灯浮標）：平成22年 6月28日設置
平成23年 2月22日撤去

● 明石海峡航路東方灯浮標

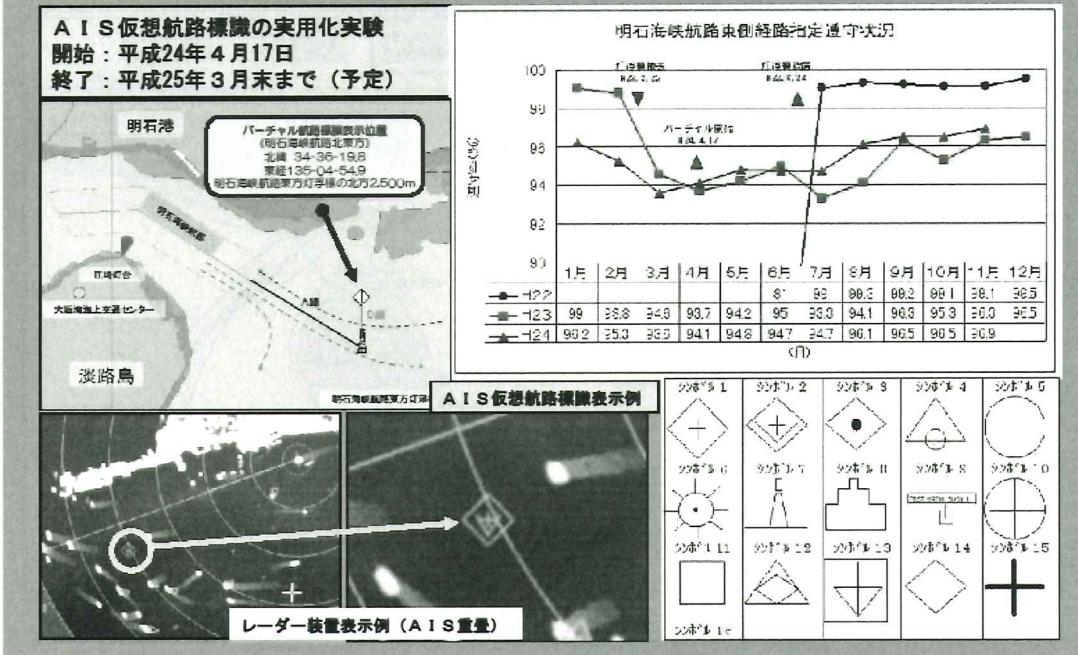
導入後 (H22. 8. 20 金)



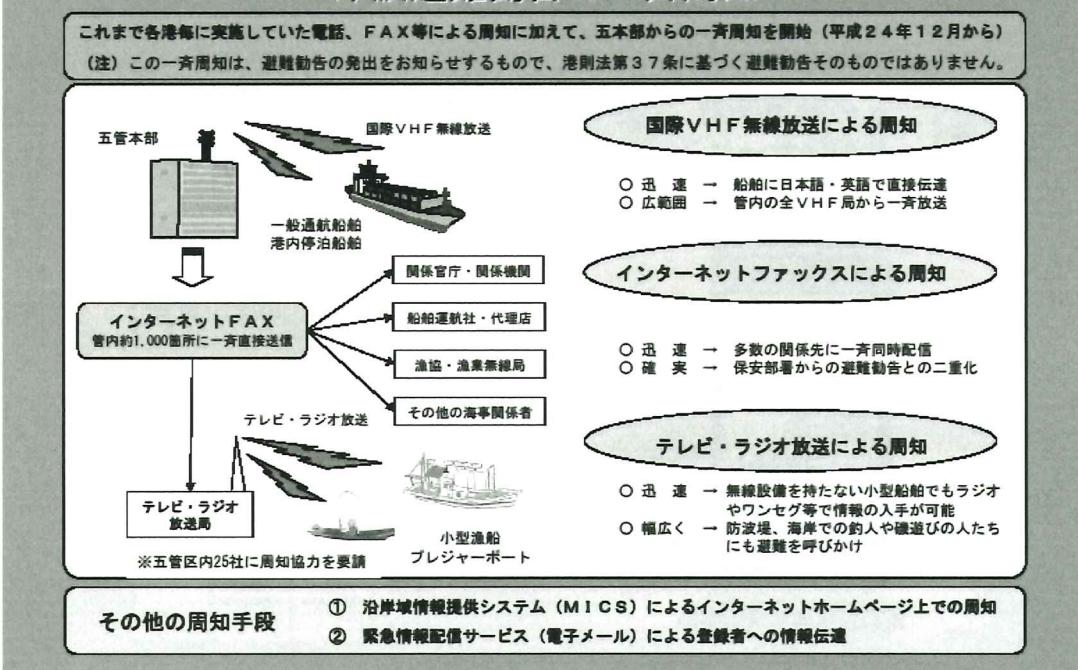
明石海峡周辺海域における海難発生隻数の推移

	H20	H21	H22	H23	H24
海難発生隻数	20	33	25	12	14

明石海峡におけるAIS仮想航路標識の実用化実験



津波避難勧告の一斉周知



明石海峡における漁船操業状況の情報提供

大阪湾海上交通センターHP

いかなご漁期中は、操業形態図(予測)・時刻別操業図をUP

明石海峡海上では、いかなご漁期中の操業形態図(予測)・時刻別操業図をUPしております。また、航行する船の位置情報をもとに、操業漁船情報を表示しております。

2月28日06時55分
西流・下降 4.6ノット

操業漁船情報

海の緊急情報配信サービス

五管区では、平成24年7月1日からサービス開始

海の緊急情報配信サービス開始

1 「緊急情報配信サービス」で配信する情報

気象警報・注意報等

気象庁が発表する次の気象警報・注意報等の情報(全4種)

- 津波警報
- 気象警報
- 気象注意報
- 地方海上警報

安全情報

平成24年7月1日サービス開始

- 航行の制限
- 船舶運航の取扱い
- 船舶の停泊

第五管区海上保安本部

明石海峡における潮流観測

明石海峡の潮流のリアルタイムデータを大阪湾海上交通センターから情報提供できるよう現在、連続試験観測とデータ伝送試験を実施しています。

大阪湾海上交通センター

明石海峡航路中央第三号灯浮標

位置図

伝送された潮流観測データ

明石海峡航路中央第三号灯浮標の潮流状況

その他の海難防対策

小型船に対する海難防止対策

鳴門海峡飛島灯台

小型漁船やプレジャー・ボートに天候の急変や風浪の発生などに対する安全行動を促す

吹流しのたなびき角度と風速の目安

たなびき角度	風速
90度	10m/s
80度	8m/s
65度	6m/s
45度	4m/s

<その他の海難防止活動等>

- 1月 118番周知活動
- 3月 いかなご漁盛漁期における安全対策
- 4月 霧海難防止キャンペーン
- 5月 GWマリンレジャー安全推進期間
- 6月 大阪湾クリーン作戦
海洋環境保全推進期間
- 7月 全国海難防止強調運動
- 9月 防災週間
漁船海難防止強化期間
タンカーバース一斉点検
- 10月 海上環境月間
- 12月 年末年始特別警戒及び安全指導

第8回 月 例 会 概 要

1 日 時 平成25年2月15日(金)15:00~16:30
2 場 所 神戸市立 こうべまちづくり会館 2階ホール
3 出 席 者 25名
4 概 要

(1) 事業経過報告等

世良専務理事から事業報告及び会務報告が行われた。

(2) 講 演

神戸大学大学院 海事科学研究科 教授 古莊 雅生 氏により「海事教育の国際貢献」についてと題し、講演が行われた。

《第8回月例会講演資料》

「海事教育の国際貢献」

講師 神戸大学 海事科学研究科
教授 古 莊 雅 生 氏

公益社団法人
神戸海難防止研究会
第8回 月例会

海事教育の国際貢献

古 莊 雅 生
神戸大学 海事科学研究科
国際海事研究センター
furusho@maritime.kobe-u.ac.jp

内 容

1. 海事教育
2. 海事教育機関（国内・海外）
3. IAMU（国際海事大学連合）
4. トルコ国 海事教育向上プロジェクト
5. アルジェリア国 海事研究向上プロジェクト



海事と海事科学

「海事」：「海洋を舞台とした人間活動」

「海事科学」：海事にかかるいろいろな問題を、
 理工学をベースとし、社会科学と
 連携させた科学的なアプローチに
 よって解決する学際的な学問領域

「目的」：海事への理解を通して、国際性、人間性、
 創造性ならびに専門性豊かな人材の育成

海事教育（海事科学研究科）

海・船を舞台にした地球規模の人間活動に関わる
輸送・情報・エネルギー・環境保全等の問題を、
自然科学及び社会科学を高度に連携させた科学的
なアプローチによって解決することを目指した
教育・研究

海事科学専攻

【海事マネジメント科学講座】

海事管理・人的要素管理・海事関連法規・
浮体管理・航海情報科学・船舶機関管理・
海事危機管理・海事環境保全

【海洋ロジスティクス科学講座】

輸送計画科学・輸送情報科学・貨物管理科学・
貨物包装材料科学・海上交通情報システム科学・
海洋情報計測科学・海洋利用科学

【マリンエンジニアリング講座】

構造強度シミュレーション工学・海洋機器設計
制御学・海洋応用エネルギー科学・燃焼環境科
学・粒子ビーム応用科学・環境エネルギー物質
科学・環境応用計測科学・海洋環境計測科学・
* 海洋環境計測科学・地域環境科学

2. 海事教育機関



2. 海事教育機関（世界）

IAMU (国際海事大学連合) founded in 1999
International Association of Maritime Universities

設立8機関

1. Arab Academy for Science and Technology and Maritime Transport
2. Australian Maritime College
3. Cardiff University [now replaced by Polytechnic University of Catalonia, Faculty of Nautical studies, Barcelona]
4. Istanbul Technical University, Maritime Faculty
5. Kobe University of Mercantile Marine [now transformed to Kobe University, Faculty of Maritime Sciences]
6. Maine Maritime Academy
7. World Maritime University
8. Nippon Foundation



IAMU: <http://www.iamu-edu.org/IAMUMembersGeneralMap.aspx>



国際海事人材データベース

<http://mhrc.imerc.maritime.kobe-u.ac.jp>

国際海事機関(IMO)

<http://www.imo.org/Pages/home.aspx>

設立の目的

国際貿易に従事する海運に影響のあるすべての種類の技術的事項に関する政府の規則及び慣行について、政府間の協力のための機構となり、政府による差別的措置及び不必要的制限の除去を奨励し、海上の安全、能率的な船舶の運航、海洋汚染の防止に関し最も有効な措置の勧告等を行うことを目的

4. トルコ国 海事教育向上プロジェクト Project on Improvement of Maritime Education

◎ プロジェクト概要

【背景】

地中海、黒海等に面するトルコ国、海運は重要産業、保有する船舶量も年々増大。黒海と地中海を結ぶボスポラス海峡：幅が非常に狭い、世界有数の船舶交通の難所、交通量の増加、船舶の大型化に伴い船舶事故も増加。

1995年：STCW条約改正／2002年までに同条約の定める訓練要件を満たす必要／船舶設備・技術の近代化、安全性の確保等に対応できる海事教育の整備。

【経過】

(1998) 平成10年4月／事前調査団、

同年10月・12月／短期調査員派遣

(1999) 平成11年12月／実施協議調査団 派遣

(2000) 平成12年4月1日～技術協力開始



4. トルコ国 海事教育向上プロジェクト（続） Project on Improvement of Maritime Education

【上位目標】

トルコ商船の安全性が高まる。



【プロジェクト目標】

ITUMFは、国際基準を満たした教育システムを構築し、MSTCにおいては再訓練及び最新の国際基準を満たした船員を輩出。

◎URL

<http://gwweb.jica.go.jp/km/ProjectView.nsf/VIEWParentSearch/E28D43FC5F140E7C492575D10035C4DB?OpenDocument&pv=VW02040102>

5. アルジェリア国海事研究向上プロジェクト (アルジェリア国高等海運学校大学院教育・研究能力強化プロジェクト)



○1975年／カナダの援助にて創設：

アルジェリア国ブー・イスマイル高等海運学院
(ENSM)

○アルジェリア国（以下、ア国）で唯一の船舶職員養成機関、
国営船会社の船舶職員養成の他、周辺諸国の学生受入を行い、
年間のべ3,000人の教育・訓練を実施。

○1990年3月から4年間／ENSMに対して、JICAは、「ブー・
イスマイル高等海運学校プロジェクト」を実施、専門家派遣
や機材（レーダーシミュレータ、ディーゼルエンジンプラント等）
供与等により、ENSM内の既存の訓練コースの内容拡充。

○技術協力終了後にア国治安が悪化／1994年以降のア国海事
分野への支援は中断

○2005年6月にフォローアップ協力／JICA技術プロジェクト
で供与のレーダーシミュレータの機材更新等。

5. アルジェリア国海事研究向上プロジェクト（続）

○ア国独自の予算による教育設備の整備等が着実に実施、ENSMは同国の産業人材育成計画において重要な地位を占めるとして、2009年9月に「Grande Ecole」（最高位単科大学）昇格、着実に発展。2009年／基礎情報収集調査、ENSMは、海事・海上安全分野の博士の学位を保持している教官（修士号は取得している）が極めて少ないこと等から、

1. 海事・海上安全分野の教育・研究の質の確保等が十分ではない、
2. 教官及び教官候補の人材に対する教育・研究能力強化の必要性、
3. ENSMはアフリカの周辺国であるコンゴ（2名）、ガボン（2名）、セネガル（9名）、カメルーン（1名）、コートジ・ボワール（1名）から留学生を受け入れ、その数は少なく、未だに国際的な教育・研究機関となる途上段階と位置付けられ、今後の発展のために更なる教育・研究の質の向上等が必要な状況。

○ENSMが今後発展する上で、海事・海上安全分野の教育・研究の質の向上が喫緊の課題、ア国は係る分野の技術協力について、日本に対して支援を要請





第9回 月 例 会 概 要

1 日 時 平成25年3月28日(木)15:00～16:30
2 場 所 神戸市立 こうべまちづくり会館 2階ホール
3 出 席 者 25名
4 概 要

(1) 事業経過報告等

世良専務理事から事業報告及び会務報告が行われた。

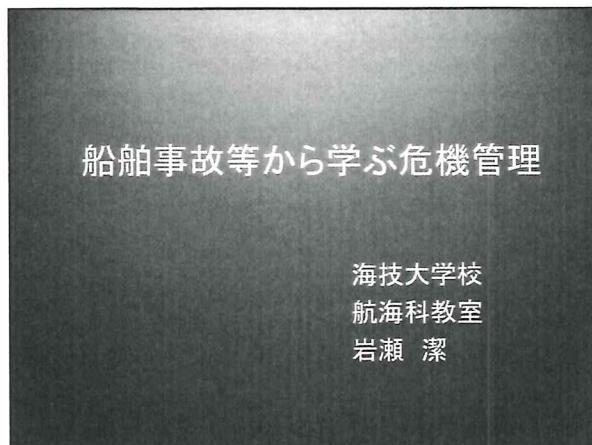
(2) 講 演

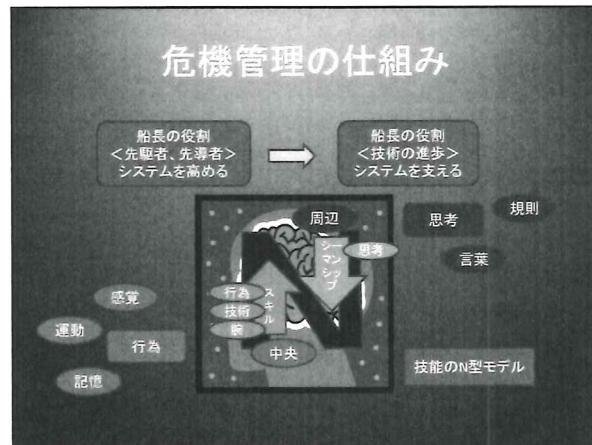
海技大学校 教授 航海科長 岩瀬 潔 氏により「船舶事故等から学ぶ危機管理」と題し、講演が行われた。

《第9回月例会講演資料》

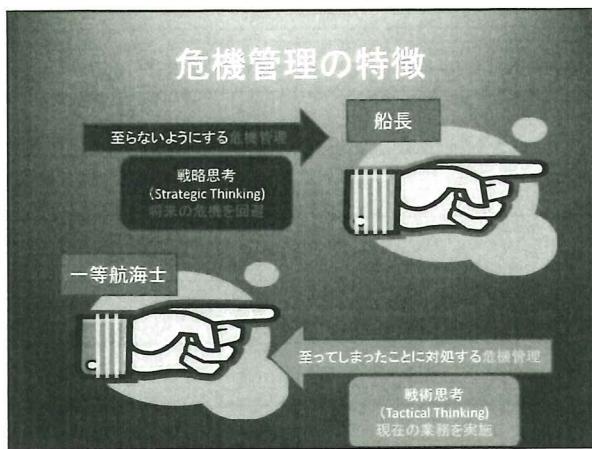
「船舶事故等から学ぶ危機管理」

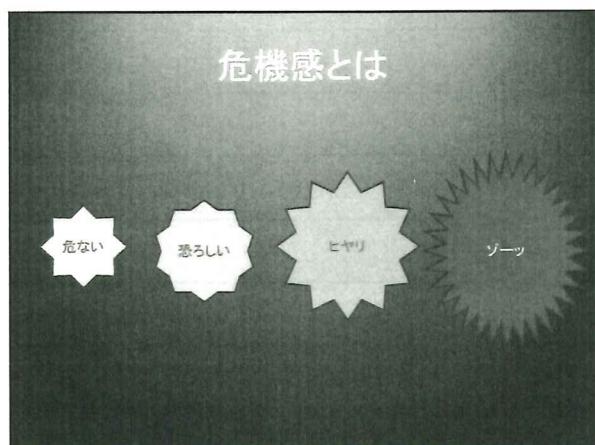
講師 海技大学校 教授
航海科長 岩瀬 潔 氏

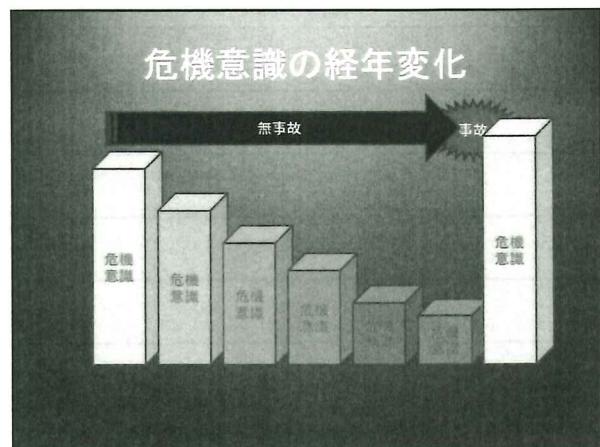


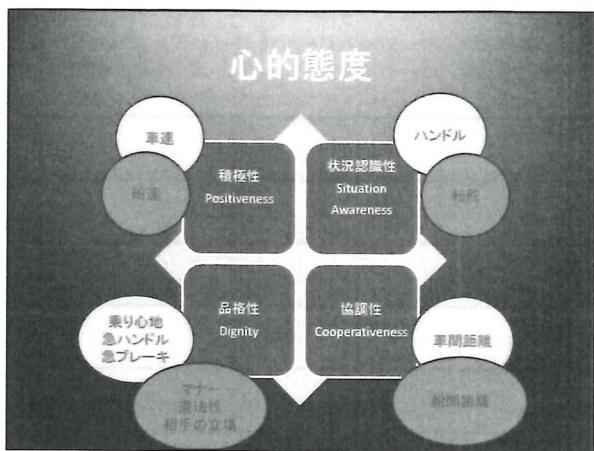




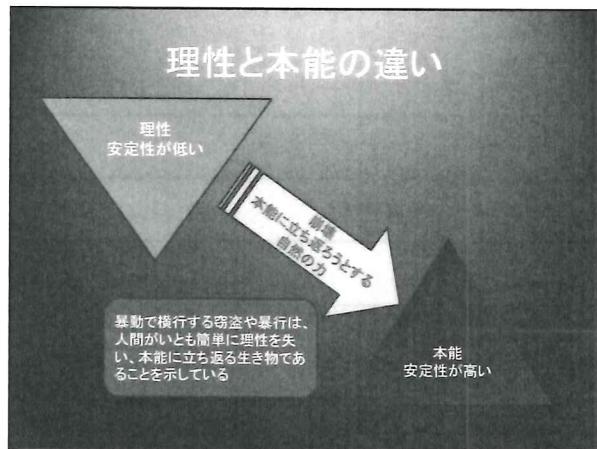


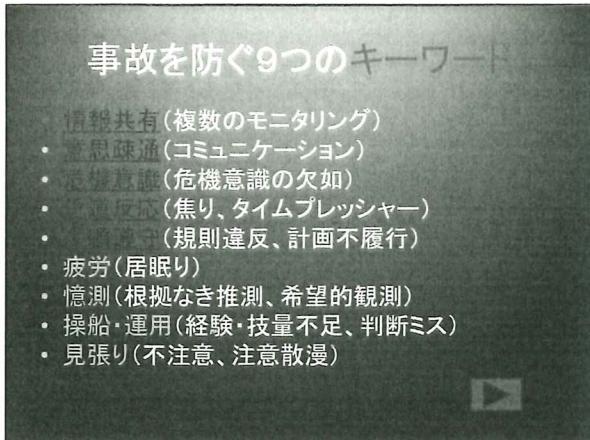


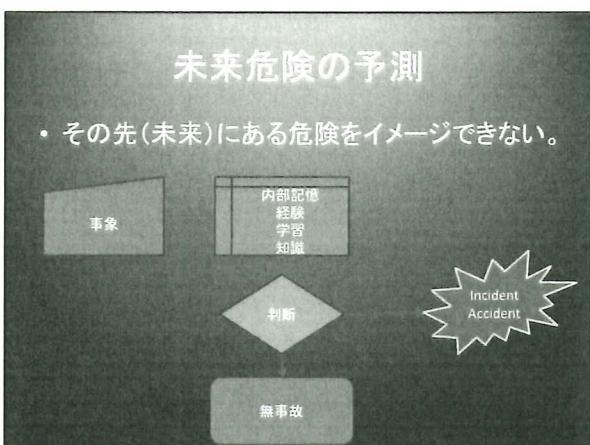














事 業 報 告

平成24年度第8回船積危険品研究委員会

1 日 時 平成25年1月15日(火)14:30~16:30

2 場 所 商船三井ビル 7階 会議室

3 出 席 者 別紙のとおり

4 議 題

(1) 規則等の改正について

(2) 検討個品について

(3) その他

5 資 料

席上配布

検討個品資料 1 2922 グルタルアルデヒド（1回目修正）
データ一覧

参考資料1 官報（一部抜粋）

2 危一規則の一部改正（24年12月）・本委員会関連部分

6 議 事

事務局より出欠状況、資料の確認の後、廣井 正男委員長により議事が進められた。

資料の検討個品に入るまえに、廣井 正男委員長より、(1)について説明された。

検討個品資料 1 2922 グルタルアルデヒド（1回目修正）については
確認後終了した。

以 上

別 紙

出 席 者 名 簿

(順不同・敬称略) [REDACTED] は欠席者

※海防研常任委員

委 員 長	廣 井 正 男	元神戸商船大学教授※
委 員	三 村 治 夫	神戸大学大学院海事科学研究科教授
"	児 玉 正 浩	キゾー化学工業(株)代表取締役社長※
"	迫 田 孝 広	日本郵船(株)関西支店支店長代理※
"	國 友 雄 二	(株)商船三井関西支店副支店長※ (代 白方 馨 海務監督)
"	慶 松 美 雄	日本沖荷役安全協会神戸支部専務理事・事務局長※ (代 藤原 外喜夫 安全管理部長)
"	山 根 健 次	(独)海上技術安全研究所大阪支所副支所長
関 係 官 庁	土 谷 積	神戸運輸監理部海上安全環境部船舶安全環境課専門官
"	中 西 弘 一	第五管区海上保安本部警備救難部環境防災課長 (代 水門 泰子 環境保全係員)
"	樺 名 健 一	第五管区海上保安本部交通部安全課長 (代 空野 哲平 海務第二係員)
"	三 宅 光 成	大阪海上保安監部航行安全課長
"	浅 野 光 行	神戸海上保安部航行安全課長 (代 池宮 崇 第一海務係員)
事 務 局	山 本 幸 典	公益社団法人神戸海難防止研究会常務理事
"	藤 原 昇	" 事業部長補佐

平成24年神戸港港湾計画一部変更に伴う航行安全対策調査委員会

1 日 時 平成25年1月29日(火) 13:30~15:20

2 場 所 パレス神戸 2F 大会議室

3 出 席 者 別紙のとおり

4 議 題

- (1) 調査方針について
- (2) 計画変更内容・安全性の検討等について
- (3) 報告書構成について

5 資 料

- (1) 検討資料委1-1 調査方針(案)
- (2) 検討資料委1-2 計画変更内容・安全性の検討等(案)
- (3) 検討資料委1-3 報告書構成(案)

席上配布資料

- (1) 参考資料委1-2 9頁の差替え 1枚(送付済み資料の差替え)
- (2) 検討資料委1-2 10頁の差替え 1枚(送付済み資料の差替え)
- (3) 検討資料委1-2 12頁の差替え 1枚(送付済み資料の差替え)
- (4) 正誤表(検討資料委1-2) 1枚(追加資料)

6 議 事

事務局により出席者、資料の確認後、委員長の選任が行われ、神戸大学名誉教授井上 欣三委員が委員長に選任された。委託者の神戸市みなと総局田中 誠夫 技術部計画課長の挨拶後、井上 欣三委員長により議事が進められた。

7 審議結果

提示された検討資料は、一部文言の修正を行い、委員会で出た意見を盛り込むこと前提に承認された。

以上

別紙

出席者名簿

(順不同・敬称略) [] は欠席者

※海防研常任委員

委員長	井上 欣三	神戸大学名誉教授※
委員	岩瀬 潔	海技大学校教授※
"	世良 亘	神戸大学大学院海事科学研究科准教授※
"	竹口 信和	大阪湾水先区水先人会会长※ (代 片岡 徹 副会長)
"	今西 邦彦	日本船長協会技術顧問※
"	迫田 孝広	日本郵船(株)関西支店支店長代理※
"	國友 雄二	(株)商船三井関西支店副支店長※
"	松島 豊	川崎汽船(株)関西支店海務監督※
"	加藤 琢二	神戸旅客船協会会长 (代 山西 哲司 専務理事)
"	田口 雅彦	全日本海員組合関西地方支部長

以上 9 名

関係官公序	森部 賢治	第五管区海上保安本部交通部長 (同席 空野 哲平 安全課海務第二係員)
"	中村 清	神戸海上保安部長 (代 桑田 康生 次長) (同席 徳丸 健嗣 交通課長) (同席 浅野 光行 航行安全課長) (同席 石塚 哲夫 航行安全課第二海務係長)
"	菊地 身智雄	近畿地方整備局港湾空港部長 (代 萩原 博美 港湾空港部港湾計画課 課長補佐)
"	平井 住夫	兵庫県県土整備部土木局港湾課長

以上 8 名

委託関係者	田中 誠夫	神戸市みなと総局 技術部計画課長
"	辻 隆弘	" みなと振興部海務課港務係長
"	小嶋 省一	" 技術部計画課計画第二係長
"	成本 克彦	" 技術部計画課計画第二担当係長
"	旭 隆朗	" みなと振興部海務課港務係
"	坂下 友里	" 技術部計画課計画第二係
"	濱端 康成	" 技術部計画課計画第二係

以上 7 名

事務局	世良邦夫	(公社)神戸海難防止研究会専務理事
〃	山本幸典	〃 常務理事
〃	塔本吉夫	〃 事業部長補佐
〃	藤原昇	〃 事業部長補佐
〃	竹田和子	〃 事業部員

以上 5 名

合計 29 名

B社大型原油タンカー船型大型化に伴う航行安全対策調査第1回委員会

1 日 時 平成25年2月4日(水) 13:30～15:35

2 場 所 メリケンパークオリエンタルホテル 4F 銀河の間

3 出 席 者 別紙のとおり

4 議 題

(1) B社概要 (パワーポイントによる説明)

(2) 調査方針について

(3) 計画概要について

(3) 大阪湾の航行環境について

(4) B社付近の航行環境について

5 資 料

(1) 検討資料委1-1 調査方針 (案)

(2) 検討資料委1-2 計画概要 (案)

(3) 検討資料委1-3 大阪湾の航行環境 (案)

(4) 検討資料委1-4 B社付近の航行環境 (案)

(5) 参考資料-1 関西石油タンカー用桟橋築造に関する回答について

(6) 参考資料-2 現状の安全対策

(7) 参考資料-3 現状の防災対策

席上配布資料

検討資料委1-2 計画概要 P4 1枚 差替え

検討資料委1-4 堀製油所付近の航行環境

6 議 事

事務局より出席者、資料の確認の後、委員長の選任が行われ、神戸大学名誉教授
井上 欣三委員が委員長に選任された。委託者挨拶の後、井上 欣三 委員長によ
り議事がすすめられた。

7 審議結果

提示された検討資料は、一部文言の修正及び委員会で出た意見を盛り込むことを
前提に承認された。

以 上

別 紙

出 席 者 名 簿

(順不同・敬称略)

※海防研常任委員

委 員 長	井 上 欣 三	神戸大学名誉教授※
委 員	世 良 亘	神戸大学大学院海事科学研究科准教授※
"	岩 瀬 潔	海技大学校教授※
"	松 本 宏 之	海上保安大学校教授※
"	竹 口 信 和	大阪湾水先区水先人会会長※
"	片 岡 徹	大阪湾水先区水先人会副会長※
"	木 本 弘 之	(独)海上災害防止センター調査研究室長
"	今 西 邦 彦	(一社)日本船長協会技術顧問※
"	迫 田 孝 広	日本郵船(株)関西支店支店長代理※
"	國 友 雄 二	(株)商船三井関西支店副支店長※
"	松 島 豊	川崎汽船(株)関西支店副支店長※
"	池 野 誓 男	(社)大阪府タグ事業協会会长
"	松 田 和 男	堺泉州北船舶安全協会会长

以上 13 名

関係官公庁	森 部 賢 治	第五管区海上保安本部交通部長 (同席 片山 敬義 安全課専門官)
"	佐々木 幸 男	第五管区海上保安本部警備救難部長 (代 井本 拓也 第一災害対策係長)
"	川 名 一 德	大阪海上保安監部長 (代 三宅光成 航行安全課長) (同席 小川 珠樹 警備救難課専門官)
"	安 尾 博 志	堺海上保安署長 (同席 志貴 友也 港務係専門員)
"	井 上 博 瞳	大阪府港湾局長 (代 中田 憲正 計画調整課長) (同席 山谷 武 計画調整課計画グループ)

以上 9 名

委 託 者 B社

以上 7 名

事 務 局	世 良 邦 夫	公益社団法人神戸海難防止研究会専務理事
"	山 本 幸 典	" 常務理事
"	塔 本 吉 夫	" 事業部長補佐

事務局	藤原昇	公益社団法人神戸海難防止研究会事業部長補佐
//	竹田和子	// 事業部員
//	伊豫谷一成	(株)日本海洋科学関西支社取締役
//	伊藤格	// コンサルタントグループ統括部長
//	植山通朗	// 顧問
//	石黒幸子	// 主任
		以上 9名
		合計 38名

平成24年度第9回船積危険品研究委員会

1 日 時 平成25年2月12日(火)13:00~15:00

2 場 所 商船三井ビル 7階 会議室

3 出 席 者 別紙のとおり

4 議 題

(1) 検討個品について

(2) その他

5 資 料

席上配布

(1) 検討個品資料 1 2922 グルタルアルデヒド (1回目修正)

データ一覧

2 1792:3498 一塩化ヨウ素

データ一覧

6 議 事

事務局より出欠状況、資料の確認の後、廣井委員長により議事が進められた。

検討個品資料 1 2922 グルタルアルデヒド (1回目修正) については

確認後終了した。

ホームページに掲載することで了承された。(別紙)

2 1792:3498 一塩化ヨウ素については、次回も検討することとなつた。

以 上

別 紙

出 席 者 名 簿

(順不同・敬称略) [REDACTED] は欠席者

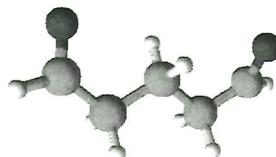
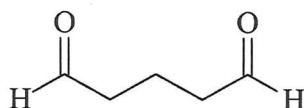
※海防研常任委員

委 員 長	廣 井 正 男	元神戸商船大学教授※
委 員	三 村 治 夫	神戸大学大学院海事科学研究科教授
"	児 玉 正 浩	キソ一化学工業㈱代表取締役社長※
"	迫 田 孝 広	日本郵船㈱関西支店支店長代理※
"	國 友 雄 二	(株)商船三井関西支店副支店長※ (代 白方 馨 海務監督)
"	慶 松 美 雄	日本沖荷役安全協会神戸支部専務理事・事務局長※ (代 藤原 外喜夫 安全管理部長)
"	山 根 健 次	(独)海上技術安全研究所大阪支所副支所長
関 係 官 庁	土 谷 究	神戸運輸監理部海上安全環境部船舶安全環境課専門官
"	中 西 弘 一	第五管区海上保安本部警備救難部環境防災課長 (代 水門 泰子 環境保全係員)
"	椎 名 健 一	第五管区海上保安本部交通部安全課長 (代 空野 哲平 海務第二係員)
"	三 宅 光 成	大阪海上保安監部航行安全課長 (代 森 光男 第一海務係員)
"	浅 野 光 行	神戸海上保安部航行安全課長 (代 池宮 崇 第一海務係員)
事 務 局	山 本 幸 典	公益社団法人神戸海難防止研究会常務理事
"	藤 原 昇	" 事業部長補佐

国連番号
2922※

グルタルアルデヒド

GLUTARALDEHYDE



物質の特定

C A S 番 号 : 111-30-8

化 学 式 : $C_5H_8O_2$; $OHC(CH_2)_3CHO$

別名
(商品名) : 1, 3-Diformylpropane; Glutaral; Glutardialdehyde; Glutaric acid dialdehyde; Glutaric aldehyde; Pentanodial; 1, 5-Pantanodial; Pentane-1, 5-dial; 1, 5-Pantanedione ; (Cidex)
1, 3-ジフォルミルプロパン; グルタラール; グルタルジアルデヒド; グルタル酸ジアルデヒド; グリタリックアルデヒド; ペンタンジアール; 1, 5-ペントンジアール; ペンタン-1, 5-ジアール; 1, 5-ペンタンジオン; (サイデックス); (ステリゾール); (ステリハイド)

[概説]

グルタルアルデヒドはジアルデヒドの一つで、特異な刺激臭がある液体である。殺菌消毒薬、電子顕微鏡観察用標本調整の固定剤、皮革のなめし剤、有機合成の中間体などとして用いられている。市販されているものは2~20%の水溶液であるので、輸送・使用しようとしているものの濃度を知っておく必要がある。本シートでは純品のものを中心に記載し、25~50%水溶液についても付記する。記載されているデータには溶液についてのものと純品(高濃度の溶液)についてのものが混同している場合があるので注意を要する。

規則名・法規等

[規則名] ※CORROSIVE LIQUID, TOXIC, N.O.S. : (Glutaraldehyde)

※その他の腐食性物質(液体)(毒性のもの) : (グルタルアルデヒド)

危一規則

分類・等級等: 腐食性物質 8

II

副次危険性等級: 6.1

積載場所: 甲板上, 甲板下

コンテナ収納検査: 要

積付検査: 否

IMDG-CODE

分類・等級等: Class 8

II

副次危険性等級: 6.1

積載場所: On deck, Under deck

CFR 172. 101

分類・等級等: 8

II

ラベルコード: 8, 6.1

積載場所: On deck, Under deck

港則法: 腐食性物質

荷役許容量: A / 10

B / 250

C1 / 1000

C2 / 4000

海防法: Y類 (注1)

(注1) グルタルアルデヒド溶液 (濃度が50重量パーセント以下のものに限る。)

消防法: -

船積上の注意事項

荷姿 危一規則規定によるものであること。

- イ. 居住区域から離れた場所に積載すること。(危)
- ロ. 居住区などを汚染しないように積載すること。(IMDG-CODE, CFR)
- ハ. その他腐食性物質及び毒物類についての一般的注意事項に従うこと。

物理／化学的性質

外観等: 無色～淡黄色油状液体

臭: 特異な刺激臭

比重又は嵩比重: 0.72 (注2)

蒸気比重: 3.5

融点 (°C): -14 (注3)

沸点 (°C): 188 (分解) (注4)

溶解性:

水: 易

アルコール: 易

エーテル: 可

(注2) 50%水溶液は1.1。 (注3) 50%水溶液は-6°C。 (注4) 50%水溶液は101°C。

用途

医療機器の殺菌消毒 (0.5%, 2%水溶液)。電子顕微鏡、光学顕微鏡用試料の組織固定剤 (1.5~6%水溶液)。化粧品の防腐剤。死体防腐剤。皮なめし剤。タンパク質・ポリヒドロキシ物質の架橋剤。有機合成の中間体

化 学 的 危 險 性

腐 食 性 :

人 : あり

金 属 : あり

木 材 : なし

酸 化 性 : なし

水 / 空 気 / 熱 分 解 す る と 刺 激 性 の 有 毒 な 煙 霧 を 発 生 す る。 加 热 に よ り 重 合 す る。

可 燃 性 : なし

引 火 点 (°C) :

発 火 点 (°C) :

爆発限界 (%) :

特 記 事 項 : 水の存在下で重合するが、減圧蒸留することによりグルタルアルデヒドを再生する。25%水溶液のpHは2.9。

E m S F-A, S-B

消 火 剤 :

検 知 法 : 湿らせたpH試験紙（酸性）による。

人 体 へ の 影 韻

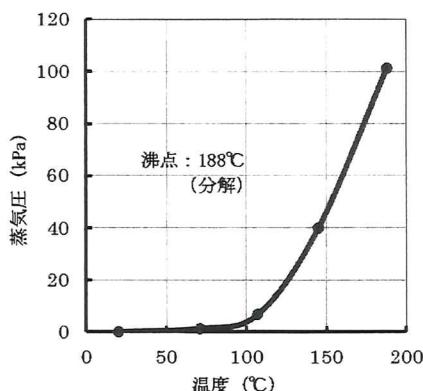
作業環境の 許容濃度 (T L V)	T W A	S T E L	C(上限値)	経皮吸収	発がん性
			0.05 ppm		A4

毒 性 : LD₅₀ 134mg/kg (経口ラット)

蒸 气 , 粉 塵 な ど を 吸 入 し た 場 合	気道を刺激する。咳、頭痛、息苦しさ、吐き気、喘息、咽頭痛を起こす。胸痛、肺充血、肺出血を起こし、死に至るおそれがある。
飲 み 込 ん だ 場 合	消化管を刺激する。腹痛、吐き気、おう吐、めまい、歩行困難、あえぎ、無気力、筋けいれん、呼吸困難、代謝性アシドーシスを起こす。高濃度の場合は胃腸の出血を起こし、死に至るおそれがある。
皮 膚 に 付 着 し た 場 合	刺激する。激しい皮膚の薬傷や皮膚の変色を起こす。感作性があり、アレルギー性皮膚反応を起こすおそれがある。
眼 に 入 つ た 場 合	強く刺激し、眼の損傷を起こす。角膜、結膜、虹彩に中度～重度の充血、腫れ、混濁、流涙、浮腫を生じる。

救急処置

蒸気、粉塵など吸入した場合	直ちに新鮮な空気の場所に移し、更衣させ、保温安静に努め、医師の手当を受ける。要すれば、人工呼吸、酸素吸入を行う。
飲み込んだ場合	口をすすぎ、直ちにコップ1~2杯の水又は牛乳を与え薄める。活性炭20gを水とともに飲ませ、硫酸マグネシウム30gを水に溶かして与え、医師の手当を受ける。
皮膚に付着した場合	汚染された衣服と靴を脱がせ、石けんと水で十分に洗い流す。痛みや刺激が続く場合は医師の手当を受ける。
眼に入つた場合	直ちに流水で十分に洗った後、医師の手当を受ける。
漏洩した場合	通風換気を十分に行い、保護具着用の上、破損箇所をシールし、吸着材をまいて掃き取った後、大量の水で洗う。
保護器具	防毒マスク又は自給式呼吸具、保護衣、保護メガネ、保護手袋、保護長靴



グルタルアルデヒドの蒸気圧曲線

A社LNG船着離桟に係る航行安全対策検討調査第2回検討部会

1 日 時 平成25年2月19日(火)13:30~17:15

2 場 所 ラッセホール サンフラワーの間

3 出 席 者 出席者名簿のとおり

4 議 題

- 1) ビジュアル式操船シミュレータ実験結果について
- 2) 着離桟に係る安全性の検討について
- 3) 航行安全対策一部修正について

5 資 料

- 1) 検討資料部2-1 ビジュアル式操船シミュレータ実験結果(案)
- 2) 検討資料部2-2 着離桟に係る安全性の検討(案)
- 3) 検討資料委2-3 航行安全対策一部修正(案)

席上配布

- 1) 席上配布1 検討資料部2-2参考資料 安全性の検討フロー
- 2) 席上配布2 " 28、29、30頁 差替え

6 議 事

世良 亘部会長により議事が進められ、提出した検討資料は、修正意見等の審議結果について委員会に報告することとして認められた。

以 上

別 紙

出席者名簿

(順不同・敬称略) [REDACTED] は欠席者

※海防研常任委員

部会長	世良 亘	神戸大学大学院海事科学研究科准教授※
委員	淺木 健司	海技大学校教授※
"	田中 隆博	海上保安大学校准教授
"	片岡 徹	大阪湾水先区水先人会副会長※
"	今西 邦彦	(一社)日本船長協会技術顧問※
"	迫田 孝広	日本郵船(株)関西支店長代理※
"	國友 雄二	(株)商船三井関西支店副支店長※
"	松島 豊	川崎汽船(株)関西支店副支店長※

計 7 名

関係官公序	森 部 賢治	第五管区海上保安本部交通部長 (代 三宅 真二 企画調整官) (同席 北野 隆志 安全課海務第二係長)
"	川名 一徳	大阪海上保安監部長 (代 三宅 光成 航行安全課長) (同席 下須 弘文 第一海務係長)
"	安尾 博志	堺海上保安署長 (同席 志貴 友也 専門員)

計 6 名

委託者	A社	計 9 名
事務局	山本 幸典	(公社)神戸海難防止研究会常務理事
"	竹村 太志	" 主任研究員
"	塔本 吉夫	" 事業部長補佐
"	竹田 和子	" 事業部員
"	伊豫谷 一成	(株)日本海洋科学取締役関西支社長
"	植山 通朗	" 関西支社顧問
"	野間 卓志	" " 課長代理

計 7 名

合計 29 名

大阪湾における交通流交差海域等の安全確保に関する調査研究 第2回委員会

1 日 時 平成25年2月21日(木) 13:30~15:10

2 場 所 神戸ポートタワーホテル 5F パールの間

3 出 席 者 別紙のとおり

4 議 題

- (1) ヒアリング集計結果について
- (2) 運航者から見た注意海域等について
- (3) 有益情報・参考事項について
- (4) その他

5 資 料

- (1) 検討資料委2-1 ヒアリング集計結果(案)
- (2) 検討資料委2-2 運航者から見た注意海域等(案)
- (3) 検討資料委2-3 有益情報・参考事項(案)

席上配布資料

- 1 検討資料委2-1 P7、P12、P13、P17差し替え
- 2 参考資料 ヒアリングシート

6 議 事

事務局より出席者、資料の確認の後、井上 欣三委員長により議事がすすめられた。

7 審議結果

提示された検討資料は、一部文言の修正及び委員会で出た意見を盛り込むことを前提に承認された。

以 上

別 紙

出 席 者 名 簿

(順不同・敬称略) [REDACTED] は欠席者

※海防研常任委員

委 員 長	井 上 欣 三	神戸大学名誉教授
委 員	[REDACTED] 岩瀬 漂	海技大学校教授※
"	世 良 亘	神戸大学大学院海事科学研究科准教授※
"	村 田 勝 久	内海水先区水先人会会长※
"	竹 口 信 和	大阪湾水先区水先人会会长※ (代 片岡 徹 副会長)
"	今 西 邦 彦	(一社) 日本船長協会技術顧問※
"	迫 田 孝 広	日本郵船(株)関西支店支店長代理※
"	國 友 雄 二	(株)商船三井関西支店副支店長※
"	松 島 豊	川崎汽船(株)関西支店副支店長※
"	田 渕 訓 生	全国内航タンカー海運組合関西支部長 (代 永石 大機 事務局長)
"	白 野 哲 也	大阪フェリー協会専務理事
		以上 10 名
関係官公庁	森 部 賢 治	第五管区海上保安本部交通部長 (同席 清水 景平 安全課第一海務係専門員)
"	川 名 一 德	大阪海上保安監部長 (代 會所 司 航行安全課専門官)
"	中 村 清	神戸海上保安部長 (代 加藤 一也 航行安全課専門官)
"	谷 延 京 一	和歌山海上保安部長 (代 西口 善章 交通課専門官)
"	松葉佐 謙一郎	大阪湾海上交通センター所長 (代 中村 直人 次長)
"	田 中 曜	近畿運輸局海上安全環境部長
"	堀 尾 保 之	水産庁瀬戸内海漁業調整事務所長 (代 束原 茂 調整課長)
"	豊 田 巍	神戸市みなと総局担当局長 (代 辻 隆弘 振興部海務課港務係長) (同席 旭 隆朗 海務係)
		以上 10 名

事務局 世良邦夫 (公社)神戸海難防止研究会専務理事
〃 山本幸典 〃 常務理事
〃 塔本吉夫 〃 事業部長補佐
〃 藤原昇 〃 事業部長補佐
〃 竹田和子 〃 事業部員
〃 野間卓志 (株)日本海洋科学関西支社課長代理

以上 6 名
計 26 名

B社大型原油タンカー船型大型化に伴う航行安全対策調査第2回委員会

1 日 時 平成25年2月22日(金) 13:30~15:25

2 場 所 パレス神戸 2F 大会議室

3 出 席 者 別紙のとおり

4 議 題

- (1) 第1回委員会議事概要について
- (2) 船型大型化に係る外力影響、タグボート支援力及び桟橋強度の検討について
- (3) 操船シミュレータ実験実施方案について
- (3) 係留動揺シミュレーション実施方案について

5 資 料

- (1) 検討資料委2-1 船型大型化に係る外力影響、タグボート支援力及び桟橋強度の検討（案）
- (2) 検討資料委2-2 操船シミュレータ実験実施方案（案）
- (3) 検討資料委2-3 係留動揺シミュレーション実施方案（案）

席上配布資料

- 1 第1回委員会議事概要（案）
- 2 第1回委員会における確認事項及び対応等

6 議 事

事務局より出席者、資料の確認の後、井上 欣三委員長により議事がすすめられた。

7 審議結果

提示された検討資料は、一部文言の修正及び委員会で出た意見を盛り込むことを前提に承認された。

以 上

別 紙

出 席 者 名 簿

(順不同・敬称略) [REDACTED] は欠席者

※海防研常任委員

委 員 長	井 上 欣 三	神戸大学名誉教授※
委 員	世 良 亘	神戸大学大学院海事科学研究科准教授※
"	岩瀬 潔	海技大学校教授※
"	松 本 宏 之	海上保安大学校教授※
"	竹 口 信 和	大阪湾水先区水先人会会长※
"	片 岡 徹	大阪湾水先区水先人会副会长※
"	木 本 弘 之	(独)海上災害防止センター調査研究室長
"	今 西 邦 彦	(一社)日本船長協会技術顧問※
"	迫 田 孝 広	日本郵船(株)関西支店支店長代理※
"	國 友 雄 二	(株)商船三井関西支店副支店長※
"	松 島 豊	川崎汽船(株)関西支店副支店長※
"	池 野 誓 男	(社)大阪府タグ事業協会会長 (同席 植村 博)
"	松 田 和 男	堺泉州北船舶安全協会会長

以上 11名

関係官公庁	森 部 賢 治	第五管区海上保安本部交通部長 (代 椎名 健一 安全課長) (同席 北野 隆志 海務第二係長)
"	佐々木 幸 男	" 警備救難部長 (代 井本 拓也 第一災害対策係長)
"	川 名 一 德	大阪海上保安監部長 (代 三宅光成 航行安全課長)
"	安 尾 博 志	堺海上保安署長 (同席 志貴 友也 港務係専門員)
"	井 上 博 瞳	大阪府港湾局長 (代 中田 憲正 計画調整課長) (同席 山谷 武 計画調整課 計画グループ)

以上 8名

委 託 者	B社	以上 5名
事 務 局	世 良 邦 夫	公益社団法人神戸海難防止研究会専務理事
"	山 本 幸 典	" 常務理事

事務局	塔本吉夫	公益社団法人神戸海難防止研究会事業部長補佐
〃	藤原昇	〃 事業部長補佐
〃	竹田和子	〃 事業部員
〃	植山通朗	(株)日本海洋科学関西支社顧問
〃	石黒幸子	〃 〃 主任
〃	伊藤格	〃 コンサルタントグループ統括部長
以上 8名		
合計 32名		

平成24年度津波来襲時の避難船舶二次災害防止対策調査 第2回委員会

1 日 時 平成25年2月26日(火) 13:30~15:35

2 場 所 神戸メリケンパークオリエンタルホテル 4F 銀河の間

3 出 席 者 別紙のとおり

4 議 題

(1) 海上交通流シミュレーション結果について

5 そ の 他

海上保安庁における津波シミュレーションの紹介

(第五管区海上保安本部海洋情報部)

6 資 料

(1) 検討資料委2-1 海上交通シミュレーション結果 (案)

参考資料 津波来襲時の避難船舶二次災害防止対策の調査

席上配布資料

1 見合い関係 (横切のみ) 発生箇所

2 避難船舶の詳細

3 検討資料委2-1 差替え30頁、69頁、70頁

7 議 事

事務局より出席者、資料の確認の後、久保 雅義委員長により議事がすすめられた。

8 審議結果

提示された検討資料は、一部文言の修正及び委員会で出た意見を盛り込むことを前提に承認された。

以 上

別 紙

出 席 者 名 簿

(順不同・敬称略) [REDACTED] は欠席者

※海防研常任委員

委 員 長	久 保 雅 義	大島商船高等専門学校長 (※神戸大学名誉教授)
委 員	小 林 英 一	神戸大学大学院海事科学研究科教授
"	松 本 宏 之	海上保安大学校教授
"	堀 晶 彦	海技大学校教授※
"	片 岡 徹	大阪湾水先区水先人会副会長※ (代 堀 真琴 理事)
"	今 西 邦 彦	(一社) 日本船長協会技術顧問※
"	迫 田 孝 広	日本郵船(株)関西支店支店長代理※
"	國 友 雄 二	(株)商船三井関西支店副支店長※
"	松 島 豊	川崎汽船(株)関西支店副支店長※

計 8 名

関係官公序	佐々木 幸 男	第五管区海上保安本部警備救難部長 (代 井本 拓也 第一災害対策係長)
"	廣瀬 洋 介	" 海洋情報部長
"	森 部 賢 治	" 交通部長 (同席 片山 敬義 安全課専門官) (同席 中村 直人 大阪湾海上交通センター 次長)
"	川 名 一 德	大阪海上保安監部長 (代 會所 司 航行安全課専門官)
"	中 村 清	神戸海上保安部長 (代 加藤 一也 航行安全課専門官)
"	田 中 曜	近畿運輸局海上安全環境部長 (代 岩野 正義 船員労働環境・海技資格課長)
"	仲 田 光 男	神戸運輸監理部海上安全環境部長
"	成瀬 英 治	近畿地方整備局港湾空港部長 (代 中平 浩之 港湾空港整備補償課 課長補佐)
"	井 上 博 瞳	大阪府港湾局長
"	丸 岡 宏 次	大阪市港湾局長
"	田 中 稔	兵庫県国土整備部土木局長 (代 市瀬 友啓 港湾課計画係主任)

関係官公庁 岡 口 憲 義 神戸市みなと総局長
(代 辻 隆弘 振興部海務課港務係長)
(同席 宮崎 行由 振興部海務課港務係)

計 13 名

事務局	山本 幸典	(公社)神戸海難防止研究会常務理事
"	塔本 吉夫	" 事業部長補佐
"	藤原 昇	" 事業部長補佐
"	竹田 和子	" 事業部員
"	國安 政幸	(株)エム・オー・エル・マリンコンサルティング関西事務所長
"	豊島 伸匡	" 主任研究員

計 6 名

合計 27 名

B社大型原油タンカー船型大型化に伴う航行安全対策調査
ビジュアル式操船シミュレータ実験

- 1 実施日時 平成25年2月28日(木)、3月1日(金)
- 2 実施場所 (株)日本海洋科学シミュレーションセンター
- 3 出席者 別紙のとおり
- 4 シミュレータ実験実施内容

28日 1200 集合
1200～1300 昼食 実施方法等説明
1300～1630 実験開始 局面別実験
1630～1715 ミーティング
1715 解散

1日 0830 集合
0900～1200 実験開始 局面別実験
1200～1300 昼食 ミーティング
1300～1600 実験再開 総合実験
1600～1645 ミーティング
1645 解散

- 5 資料
 - (1) ビジュアル式操船シミュレータ実験実施方案概要
 - (2) アンケート用紙

以上

別 紙

出 席 者 名 簿

(順不同・敬称略) [] は欠席者

※海防研常任委員

部 会 長	世 良 亘	神戸大学大学院海事科学研究科准教授※
委 員	岩 瀬 潔	海技大学校教授※
"	松 本 宏 之	海上保安大学校教授※
"	竹 口 信 和	大阪湾水先区水先人会会長※
"	片 岡 徹	大阪湾水先区水先人会副会長※
"	今 西 邦 彦	(一社)日本船長協会技術顧問※
"	迫 田 孝 広	日本郵船(株)関西支店長代理※
"	國 友 雄 二	(株)商船三井関西支店副支店長※
"	松 島 豊	川崎汽船(株)関西支店副支店長※

以上 7 名

オブザーバー	井 上 欣 三	神戸大学名誉教授※
"	池 野 誓 男	(社)大阪府タグ事業協会会長

以上 2 名

操 船 者	櫻 井 康 弘	大阪湾水先区水先人
"	堀 康 雅	"

以上 2 名

関係官公庁	森 部 賢 治	第五管区海上保安本部交通部長 (代 椎名 健一 安全課長) (同席者 北野 隆志 海務二係長)
"	川 名 一 德	大阪海上保安監部長(代 三宅 光成 航行安全課長)
"	安 尾 博 志	堺海上保安署長
"	井 上 博 瞳	大阪府港湾局長

以上 4 名

委 託 者 B社

以上 4 名

事 務 局	山 本 幸 典	(公社)神戸海難防止研究会常務理事
"	塔 本 吉 夫	" 事業部長補佐

以上 2 名

計 21 名

平成 24 年度近畿・四国地方海難防止強調運動推進連絡会議 地区推進母体連絡会議

1 日 時 平成 25 年 3 月 7 日 (木) 14:00 ~ 14:45

2 場 所 神戸第 2 合同庁舎 9 階 事案対策室

3 出 席 者 別紙のとおり

4 議 題

- (1) 平成 25 年度全国海難防止強調運動における地方重点項目及び地方運動について
- (2) 霧海難防止キャンペーンについて
- (3) その他

5 資 料

席上配布資料

- (1) 平成 25 年度全国海難防止強調運動実施計画
- (2) 平成 24 年度近畿・四国地方海難防止強調運動推進連絡会議
地区推進母体連絡会議

平成 24 年度全国海難防止強調運動の運動方針（重点事項）にかかる
海難の状況及び効果評価

- (3) 霧海難防止キャンペーンについて
- (4) 霧海難防止キャンペーンのポスター・リーフレット

6 議 事

事務局から出席者、資料の確認後、(公社)神戸海難防止研究会 世良 邦夫専務理事の挨拶の後、議事が進められた。

第五管区海上保安本部 交通部安全課 川端 成記海務第一係長から資料 (1) ~ (3) について説明が行われた。

また、事務局から、資料 (4) について説明、各構成員等へ配布することで了承された。

以 上

別 紙

出席者名簿

(順不同・敬称略)

構成員	世良邦夫	(公社)神戸海難防止研究会専務理事
(座長)		
構成員	四元文吾	第五管区海上保安本部警備救難部救難課長 (同席 河村 成重 計画係長)
"	椎名健一	第五管区海上保安本部交通部安全課長 (同席 谷岡 敦 安全課専門官、川端 成記 海務第一係長、清水 景平 海務第一係専門員)
"	三宅光成	大阪地区海難防止強調運動推進連絡会議実務責任者 (大阪海上保安監部 航行安全課長)
"	浅野光行	兵庫県阪神淡路地区海難防止強調運動推進連絡会議 実務責任者 (神戸海上保安部航行安全課長) (同席 青木 重久 海務一係長)
"	河内達也	播磨地区海難防止強調運動推進連絡会議実務責任者 (姫路海上保安部交通課長)
"	寺崎真司	和歌山北部地区海難防止強調運動推進連絡会議実務責任者 (和歌山海上保安部交通課長)
"	岩崎正	紀南地区海上安全対策協議会実務責任者 (田辺海上保安部交通課長)
"	岩崎信之	徳島地区海難防止強調運動推進連絡会議実務責任者 (徳島海上保安部交通課長) (代 足立 和良 主任航行援助管理官)
"	萩原覚	高知地区海難防止強調運動推進連絡会議実務責任者 (高知海上保安部交通課長)
"	新富敏隆	大阪湾海上交通センター運用管制課長
事務局	山本幸典	(公社)神戸海難防止研究会常務理事
"	塔本吉夫	" 事業部長補佐
"	藤原昇	" 事業部長補佐
"	竹田和子	" 事業部員
"	菱田憲次	(財)海上保安協会神戸地方本部事務局長

計 21名

霧海難防止キャンペーン

平成25年4月1日(月)～平成25年6月30日(日)

霧五戒してますか？

海〇難

《霧五戒》

- 一. 気象海象の早期把握
最新の気象情報を常に把握しましょう
- 二. 船舶間コミュニケーションの促進
VHFや汽笛信号等を活用しましょう
- 三. 航法の遵守
見張りの強化(船橋当直の増員)、レーダーの適切な使用
安全な速力での航行等法令に則った操船をしましょう
- 四. 自動操舵装置の適正使用
視界制限状態になったら速やかに手動に切り替えましょう
- 五. 早期避泊
無理な航行・操業を止め、視界の回復を待ちましょう



過去10年の視界制限時(視界2000メートル以下)における
衝突・乗揚海難発生位置
(平成15年～平成24年:第五管区海上保安本部管内)

近畿・四国地方海難防止強調運動推進連絡会議

事務局：公益社団法人 神戸海難防止研究会
公益財団法人 海上保安協会神戸地方本部

霧五戒

Five Requests to Navigation in The Dense Fog

1. 気象状況を早期に把握すべし Grasp weather conditions early

最新の気象・海象情報を把握しましょう。
Grasp the latest weather condition.



2. 船舶間コミュニケーションを促進すべし

VHFや汽笛信号等を活用する Keep watch on VHF(ch16)
大阪湾海上交通センターから、通航船舶の安全のため緊急に情報を提供することがあります。
視界の状況に関係なく、常時VHF電話(ch16)を聴守しましょう。
Vessels navigating through Akashi Kaikyo and the adjoining area are requested to keep watch on VHF(ch16), regardless of the state of visibility, for Osaka Wan Traffic Advisory Service Center may provide urgent traffic information for maritime traffic safety.



3. 航法を守るべし Observe conduct of vessels in restricted visibility

見張り強化(船橋当直の増員)、レーダの適切な使用、安全な速力での航行、音響信号の励行、機関用意、早期の適切な避航
Keep a sharp lookout (increase in personnel), Use radar suitably, Proceed at safe speed, Use sound signals, Stand-by engine, Take early action to avoid collision observing good seamanship.



4. 自動操舵装置を適正に使用すべし Use an automatic pilot properly

視界制限状態になったら、速やかに手動操舵に切り替えましょう。
Start manual steerage promptly in or near the area of restricted visibility.



5. 早期に避泊すべし Anchor early in the safe sea area

無理な航行・操業を止め、視界の回復を待ちましょう。
Anchor early in safe area, and wait for the recovery of visibility.

霧通報

明石海峡、友ヶ島水道、鳴門海峡、阪神・姫路・和歌山下津各港において視程が2,000メートル以下となった場合、隨時放送しています。
VHFch12、国際・日本語ナブテックス
AIS情報、五管区内の各海上保安部MICS(HP)

大阪湾海上交通センターからの情報提供

VHFch14、ch22
ラジオ放送1651kHz(日本語)、2019kHz(英語)
TEL/FAX: 0799-82-3040/0799-82-3046
HP: <http://www6.kaiho.mlit.go.jp/osakawan/>
※ 携帯電話からのアクセス HP: <http://www6.kaiho.mlit.go.jp/osakawan/m/>

船舶気象通報中短波無線放送

大阪、潮岬、足摺岬、室戸岬における気象・海象1670.5kHz

船舶気象通報

大阪海上保安監部(大阪、神戸、江崎) TEL: 06-4395-3900 HP: <http://www6.kaiho.mlit.go.jp/05kanku/osaka/kisyou.html>
神戸海上保安部(神戸、大阪、江崎) TEL: 078-327-4177 HP: <http://www6.kaiho.mlit.go.jp/05kanku/kobe/kisyou.html>
姫路海上保安部(男鹿島、大多府島、地蔵崎、江崎) TEL: 079-231-5063 HP: <http://www6.kaiho.mlit.go.jp/05kanku/himeji/kisyou.html>
徳島海上保安部(孫崎、潮岬、室戸岬) TEL: 0885-35-1177 HP: <http://www6.kaiho.mlit.go.jp/05kanku/tokushima/kisyou.html>
和歌山海上保安部(友ヶ島、大阪、潮岬) TEL: 073-402-6177 HP: <http://www6.kaiho.mlit.go.jp/05kanku/wakayama/kisyou.html>
田辺海上保安部(潮岬、友ヶ島) TEL: 0739-23-3177 HP: <http://www6.kaiho.mlit.go.jp/05kanku/tanabe/kisyou.html>
高知海上保安部(室戸岬、足摺岬、土佐沖ノ島) TEL: 088-837-8177 HP: <http://www6.kaiho.mlit.go.jp/05kanku/kouchi/kisyou.html>
※ 携帯電話からのアクセス HP: <http://www6.kaiho.mlit.go.jp/info/mics/m/index.htm>

FOG INFORMATION

When the visibility in Akashi Kaikyo, Tomogashima Suido, Naruto Kaikyo and Port of Hanshin, Himeji, Wakayama-Shimotsu is reduced less than 2,000 meters, Fog information is broadcasted as follows.
1. F3E 156.6MHz(CH12) in English
2. NAVTEX
3. AIS information

INFORMATION from Osaka Wan Traffic Advisory Service Center

1. F3E 156.7MHz(CH14), 161.7MHz(CH22) in English
2. H3E 2.019kHz Every hour 00-15 min and 30-45 min in English

A社LNG船着離桟に係る航行安全対策検討調査第3回委員会

1 日 時 平成25年3月11日(月)13:30~16:00

2 場 所 神戸メリケンパークオリエンタルホテル 銀河の間

3 出 席 者 議事概要出席者名簿のとおり

4 議 題

- 1) 第2回委員会議事概要について
- 2) 第2回検討部会報告について
- 3) ビジュアル式操船シミュレータ実験結果について
- 4) 着離桟に係る安全性の検討について
- 5) 航行安全対策一部修正について
- 6) 調査報告書構成について

5 資 料

- 1) 第2回委員会議事概要(案)
- 2) 検討資料委3-1 ビジュアル式操船シミュレータ実験結果(案)
- 3) 検討資料委3-2 着離桟に係る安全性の検討(案)
- 4) 検討資料委3-3 航行安全対策一部修正(案)

席上配布

- 1) 検討資料委3-4 調査報告書構成(案)

6 議 事

淺木 健司委員長により議事が進められ、提出した検討資料は、委員会においての指摘意見を基に修正することを前提として認められた。

以 上

別 紙

出 席 者 名 簿

(順不同・敬称略) [REDACTED] は欠席者

※海防研常任委員

委 員 長	淺 木 健 司	海技大学校教授※
委 員	世 良 亘	神戸大学大学院海事科学研究科准教授※
"	田 中 隆 博	海上保安大学校准教授
"	竹 口 信 和	大阪湾水先区水先人会会長※
"	片 岡 徹	大阪湾水先区水先人会副会長※
"	今 西 邦 彦	(一社)日本船長協会技術顧問※
"	迫 田 孝 広	日本郵船(株)関西支店長代理※
"	國 友 雄 二	(株)商船三井関西支店副支店長※
"	松 島 豊	川崎汽船(株)関西支店副支店長※
"	池 野 誓 男	(社)大阪府タグ事業協会会长 (代理 植村 博 専務理事)
"	松 田 和 男	堺泉州北船舶安全協議会会长

計 11 名

関係官公庁	森 部 賢 治	第五管区海上保安本部交通部長 (同席 北野隆志 安全課海務第二係長、井本 拓也 環境防災課第一災害対策係長)
"	川 名 一 德	大阪海上保安監部長(代 三宅 光成 航行安全課長)
"	安 尾 博 志	堺海上保安署長 (同席 志貴 友也 港務専門員)
"	井 上 博 瞳	大阪府港湾局長(代 中田 憲正 計画調整課長) (同席 山谷 武 計画調整課計画グループ主査)

計 8 名

委 託 者	A社	計 10 名
-------	----	--------

事 務 局	世 良 邦 夫	(公社)神戸海難防止研究会専務理事
"	山 本 幸 典	" 常務理事
"	竹 村 太 志	" 主任研究員
"	塔 本 吉 夫	" 事業部長補佐
"	竹 田 和 子	" 事業部員

事務局 伊豫谷 一成 (株)日本海洋科学取締役関西支社長

〃 植山通朗 〃 顧問

〃 野間卓志 〃 課長代理

計8名

合計37名

大阪湾における交通流交差海域等の安全確保に関する調査研究

第3回委員会

1 日 時 平成25年3月19日(火) 13:30~15:30

2 場 所 神戸ポートタワーホテル 5F パールの間

3 出 席 者 別紙のとおり

4 議 題

- (1) 海域別注意事項等について
- (2) 安全性に対する将来的な問題点等について
- (3) 報告書の構成について
- (4) その他

5 資 料

- (1) 検討資料委3-1 海域別注意事項等 (案)
- (2) 検討資料委3-2 安全性に対する将来的な問題点等 (案)
- (3) 検討資料委3-3 報告書の構成 (案)

席上配布資料

- 1 平成23年度AISデータに基づく注意海域の抽出図
- 2 平成24年度ヒアリングに基づく注意海域の見直し図
- 3 注意海域の選定結果図
- 4 注意海域の選定結果
- 5 海域別注意事項及び運航上注意を要する漁船操業
- 6 有益情報(概要)と参考事項等(概要)
- 7 安全性に対する将来的な問題点

6 議 事

事務局より出席者、資料の確認の後、井上 欣三委員長により議事がすすめられた。

7 審議結果

提示された検討資料は、一部文言の修正及び委員会で出た意見を盛り込むことを前提に承認された。

以 上

別 紙

出 席 者 名 簿

(順不同・敬称略) [REDACTED] は欠席者

※海防研常任委員

委 員 長	井 上 欣 三	神戸大学名誉教授
委 員	岩 瀬 潔	海技大学校教授※
"	世 良 宜	神戸大学大学院海事科学研究科准教授※
"	村 田 勝 久	内海水先区水先人会会長※
"	竹 口 信 和	大阪湾水先区水先人会会長※ (代 片岡 徹 副会長)
"	今 西 邦 彦	(一社)日本船長協会技術顧問※
"	迫 田 孝 広	日本郵船(株)関西支店支店長代理※
"	國 友 雄 二	(株)商船三井関西支店副支店長※
"	松 島 豊	川崎汽船(株)関西支店副支店長※
"	田 渕 訓 生	全国内航タンカー海運組合関西支部長 (代 永石 大機 事務局長)
"	白 野 哲 也	大阪フェリー協会専務理事

以上 8 名

関係官公庁	森 部 賢 治	第五管区海上保安本部交通部長 (同席 川端 成記 安全課第一海務係長)
"	川 名 一 德	大阪海上保安監部長 (代 新角 伸浩 航行安全課第一海務係)
"	中 村 清	神戸海上保安部長 (代 加藤 一也 航行安全課専門官)
"	谷 延 京 一	和歌山海上保安部長 (代 西口 善章 交通課専門官)
"	松葉佐 謙一郎	大阪湾海上交通センター所長 (代 中村 直人 次長)
"	田 中 曜	近畿運輸局海上安全環境部長
"	堀 尾 保 之	水産庁瀬戸内海漁業調整事務所長 (代 束原 茂 調整課長)
"	豊 田 巍	神戸市みなと総局担当局長 (代 辻 隆弘 振興部海務課港務係長) (同席 旭 隆朗 海務係)

以上 10 名

事務局 世良邦夫 (公社)神戸海難防止研究会専務理事
〃 山本幸典 〃 常務理事
〃 塔本吉夫 〃 事業部長補佐
〃 藤原昇 〃 事業部長補佐
〃 野間卓志 (株)日本海洋科学関西支社課長代理

以上 5 名
計 23 名

平成24年度第10回船積危険品研究委員会

1 日 時 平成25年3月22日(金)13:00~15:00

2 場 所 商船三井ビル 7階 会議室

3 出 席 者 別紙のとおり

4 議 題

(1) 検討個品について

(2) その他

5 資 料

席上配布

(1) 検討個品資料 1 1792:3498 一塩化ヨウ素

データ一覧

2 1223 灯油

データ一覧

(2) その他

1) 参考資料1 官報(一部抜粋)

2) 危規則の一部改正(24年12月)・本委員会関連部分

6 議 事

事務局より出欠状況、資料の確認の後、廣井 正男委員長により議事が進められた。

検討個品資料 1 1792:3498 一塩化ヨウ素(1回目修正)については、

次回も検討することとなった。

以 上

別 紙

出席者名簿

(順不同・敬称略) [REDACTED] は欠席者

※海防研常任委員

委 員 長	廣 井 正 男	元神戸商船大学教授※
委 員	三 村 治 夫	神戸大学大学院海事科学研究科教授
"	児 玉 正 浩	キソ一化学工業(株)代表取締役社長※
"	迫 田 孝 広	日本郵船(株)関西支店支店長代理※
"	國 友 雄 二	(株)商船三井関西支店副支店長※ (代 白方 馨 海務監督)
"	慶 松 美 雄	日本沖荷役安全協会神戸支部専務理事・事務局長※ (代 藤原 外喜夫 安全管理部長)
"	山 根 健 次	(独)海上技術安全研究所大阪支所副支所長
関 係 官 庁	土 谷 積	神戸運輸監理部海上安全環境部船舶安全環境課専門官
"	中 西 弘 一	第五管区海上保安本部警備救難部環境防災課長 (代 水門 泰子 環境保全係員)
"	椎 名 健 一	第五管区海上保安本部交通部安全課長 (代 空野 哲平 海務第二係員)
"	三 宅 光 成	大阪海上保安監部航行安全課長 (代 新角 伸浩 第一海務係員)
"	浅 野 光 行	神戸海上保安部航行安全課長 (代 池宮 崇 第一海務係員)
事 務 局	山 本 幸 典	公益社団法人神戸海難防止研究会常務理事
"	藤 原 昇	" 事業部長補佐

B社大型原油タンカー船型大型化に伴う航行安全対策調査 検討部会

- 1 日 時 平成25年3月27日(水) 13:30～15:45
- 2 場 所 神戸メリケンパークオリエンタルホテル 4F 銀河の間
- 3 出 席 者 別紙のとおり
- 4 議 題
 - (1) 操船シミュレータ実験結果について
 - (2) 係留動搖シミュレーション結果について
 - (3) 現状最大船／受入れ計画船操縦性能比較について
 - (4) ヒヤリハット事例について
 - (5) 安全性の検討について
- 5 資 料
 - (1) 検討資料部－1 操船シミュレータ実験結果（案）
" 部1－1 操船シミュレータ実験結果（データ編）（案）
 - (2) 検討資料部－2 係留動搖シミュレーション結果（案）
 - (3) 検討資料部－3 現状最大船／受入れ計画船操縦性能比較（案）
 - (4) 検討資料部－4 ヒヤリハット事例（案）
 - (5) 検討資料部－5 安全性の検討（案）
" （付属資料）現状の安全対策（案）
- 6 議 事
事務局より出席者、資料の確認の後、世良 亘部会長により議事がすすめられた。
- 7 審議結果
提示された検討資料は、修正意見等の審議結果について委員会に報告することとして承認された。

以 上

別 紙

出席者名簿

(順不同・敬称略)

※海防研常任委員

部会長	世 良 亘	神戸大学大学院海事科学研究科准教授※
委 員	岩瀬 潔	海技大学校教授※
"	松本 宏之	海上保安大学校教授※
"	竹口 信和	大阪湾水先区水先人会会長※
"	片岡 徹	大阪湾水先区水先人会副会長※
"	今西 邦彦	(一社)日本船長協会技術顧問※
"	迫田 孝広	日本郵船(株)関西支店長代理※
"	國友 雄二	(株)商船三井関西支店副支店長※
"	松島 豊	川崎汽船(株)関西支店副支店長※

以上 9 名

関係官公庁	森 部 賢治	第五管区海上保安本部交通部長(代 椎名 健一 安全課長) (同席 空野 哲平 安全課海務二係員)
"	川名 一徳	大阪海上保安監部長(代 三宅 光成 航行安全課長)
"	安尾 博志	堺海上保安署長 (同席 志貴 友也 港務係)

以上 5 名

委託者	咲賀 和雄	コスモ石油(株)堺製油所バースマスター
"	有留 正民	" " 操油課長
"	佐橋 敏治	" " 生産管理課長
"	平尾 正実	" " 生産管理課
"	安藤 弘也	" " 生産管理課

以上 5 名

事務局	山本 幸典	(公社)神戸海難防止研究会常務理事
"	塔本 吉夫	" 事業部長補佐
"	藤原 昇	" 事業部長補佐
"	竹田 和子	" 事業部員
"	伊豫谷 一成	(株)日本海洋科学取締役関西支社長
"	植山 通朗	" 顧問
"	石黒 幸子	" 主任

以上 7 名

計 26 名

平成24年度津波来襲時の避難船舶二次災害防止対策調査 第3回委員会

- 1 日 時 平成25年3月29日(金) 13:30~15:45
- 2 場 所 神戸メリケンパークオリエンタルホテル 4F 銀河の間
- 3 出 席 者 別紙のとおり
- 4 議 題
 - (1) 海上交通流シミュレーション結果の整理・とりまとめについて
 - (2) 港外避難時の減災対策について
 - (3) 報告書構成について
- 5 資 料
 - (1) 検討資料委3-1 海上交通シミュレーション結果の整理・とりまとめ (案)
 - (2) 検討資料委3-2 港外避難時の減災対策 (案)
- 席上配布資料
 - 1 検討資料委3-1 海上交通流結果の整理・とりまとめ (案) 「全差し替え」
 - 2 検討資料委3-2 港外避難時の減災対策について (案) 「全差し替え」
 - 3 検討資料委3-2 P12差し替え
 - 4 検討資料委3-3 報告書構成 (案)
 - 5 参考資料1 災害に強い漁業地域づくりガイドライン
 - 6 参考資料2 阪神港（大阪区、堺泉北区）及び阪南港における船舶津波対応要領（暫定版）
 - 7 参考資料3 阪神港神戸区及び尼崎西宮芦屋区船舶津波対策実施要領（暫定版）
- 6 議 事
事務局より出席者、資料の確認の後、久保 雅義委員長により議事がすすめられた。
- 7 審議結果
提示された検討資料は、一部文言の修正及び委員会で出た意見を盛り込むことを前提に承認された。

以 上

別 紙

出 席 者 名 簿

(順不同・敬称略) [] は欠席者

※海防研常任委員

委 員 長	久 保 雅 義	大島商船高等専門学校長 (※神戸大学名誉教授)
委 員	小 林 英 一	神戸大学大学院海事科学研究科教授
"	松 本 宏 之	海上保安大学校教授
"	堀 晶 彦	海技大学校教授※
"	片 岡 徹	大阪湾水先区水先人会副会長※
"	今 西 邦 彦	(一社) 日本船長協会技術顧問※
"	迫 田 孝 広	日本郵船(株)関西支店支店長代理※
"	國 友 雄 二	(株)商船三井関西支店副支店長※
"	松 島 豊	川崎汽船(株)関西支店副支店長※

計 8 名

関係官公庁	佐々木 幸 男	第五管区海上保安本部警備救難部長 (代 井本 拓也 第一災害対策係長)
"	廣瀬 洋 介	" 海洋情報部長 (同席 鈴木 充広 海洋調査課長)
"	森 部 賢 治	" 交通部長 (同席 空野 哲平 安全課海務第二係) (同席 新富 敏隆 大阪湾海上交通センター 運用管制課長)
"	川 名 一 徳	大阪海上保安監部長(代 三宅 光成 航行安全課長)
"	中 村 清	神戸海上保安部長(代 加藤 一也 航行安全課専門官)
"	田 中 曜	近畿運輸局海上安全環境部長
"	仲 田 光 男	神戸運輸監理部海上安全環境部長
"	成瀬 英 治	近畿地方整備局港湾空港部長 (代 中平 浩之 港湾空港整備補償課 課長補佐)
"	井 上 博 瞳	大阪府港湾局長(代 原田 雄造 危機管理G 主査)
"	丸 岡 宏 次	大阪市港湾局長(代 黒田 剛 海務担当係長)
"	田 中 稔	兵庫県国土整備部土木局長(代 中村 浩康 港湾課副課長)
"	岡 口 憲 義	神戸市みなと総局長(代 辻 隆弘 振興部海務課港務係長) (同席 宮崎 行由 振興部海務課港務係)

計 16 名

事務局	世 良 邦 夫	(公社)神戸海難防止研究会専務理事
〃	山 本 幸 典	〃 常務理事
〃	塔 本 吉 夫	〃 事業部長補佐
〃	藤 原 昇	〃 事業部長補佐
〃	竹 田 和 子	〃 事業部員
〃	國 安 政 幸	(株)エム・オー・エル・マリンコンサルティング関西事務所長
〃	豊 島 伸 匠	〃 主任研究員

計 7 名

合計 31 名

会務報告

第7回 業務運営会議

1 日 時	平成25年1月16日(水) 12:00～12:55		
2 場 所	商船三井ビル 7F 会議室		
3 出 席 者	(順不同・敬称略) [REDACTED] 欠席者		
代表理事	福間 和之	公益社団法人 神戸海難防止研究会会長	
業務執行理事	鈴木 三郎	副会長 神戸大学名誉教授	
"	村田 勝久	副会長 内海水先区水先人会会长	
"	根本 正昭	副会長 (株)商船三井執行役員 (代 國友 雄二 関西支店副支店長)	
"	世良 邦夫	公益社団法人 神戸海難防止研究会 専務理事	
"	山本 幸典	"	常務理事
オブザーバー	竹口 信和	大阪湾水先区水先人会会长	
"	小島 茂	(社)日本船長協会会長 (代 今西 邦彦 技術顧問)	
"	佐々木 真己	川崎汽船(株)取締役専務執行役員 (代 松島 豊 関西支店副支店長)	
"	秋山 信	日本郵船(株)関西支店長 (代 迫田 孝広 関西支店長代理)	
"	須貝 壽榮	元神戸地方海難審判庁序長	
"	改発 康一	神鋼物流(株)顧問	
事務局	小野田 憲明	公益社団法人 神戸海難防止研究会総務部長	
"	板坂 茂良	"	総務部長代理
"	竹田 和子	"	事業部員

4 議 題

- (1) 業務報告等について
- (2) その他

5 資 料

席上配布

資料1 業務報告等

資料2 その他

6 議事概要

事務局から、委員の出欠確認の後、福間会長の挨拶があり、引き続き議事に入った。
事務局から資料について説明し、議題について種々意見交換を行った。

以 上

第8回 業務運営会議

1	日 時	平成25年2月20日(水) 12:00~12:50	
2	場 所	商船三井ビル 7F 会議室	
3	出 席 者	(順不同・敬称略)	欠席者
	代表理事	福 間 和 之	公益社団法人 神戸海難防止研究会会長
	業務執行理事	鈴 木 三 郎	副会長 神戸大学名誉教授
"		村 田 勝 久	副会長 内海水先区水先人会会长
"		根 本 正 昭	副会長(株)商船三井執行役員 (代 國友 雄二 関西支店副支店長)
"		世 良 邦 夫	公益社団法人 神戸海難防止研究会 専務理事
"		山 本 幸 典	" 常務理事
オブザーバー		竹 口 信 和	大阪湾水先区水先人会会长
"		小 島 茂	(社)日本船長協会会長 (代 今西 邦彦 技術顧問)
"		佐々木 真 己	川崎汽船(株)取締役専務執行役員 (代 松島 豊 関西支店副支店長)
"		秋 山 信	日本郵船(株)関西支店長 (代 追田 孝広 関西支店長代理)
"		須 貝 壽 榮	元神戸地方海難審判庁庁長
"		改 発 康 一	神鋼物流(株)顧問
事 務 局		小野田 憲 明	公益社団法人 神戸海難防止研究会総務部長
"		板 坂 茂 良	" 総務部長代理
"		竹 田 和 子	" 事業部員

4 議 題

- (1) 業務報告等について
- (2) その他

5 資 料

席上配布

資料1 業務報告等

資料2 その他

6 議事概要

事務局から、委員の出欠確認の後、福間会長の挨拶があり、引き続き議事に入った。

事務局から資料について説明し、議題について種々意見交換を行った。

以 上

第9回 業務運営会議

1 日 時	平成25年3月21日(木) 12:00～12:50		
2 場 所	商船三井ビル 7F 会議室		
3 出 席 者	(順不同・敬称略) [REDACTED] 欠席者		
代表理事	福間 和之	公益社団法人 神戸海難防止研究会会長	
業務執行理事	鈴木 三郎	副会長 神戸大学名誉教授	
"	村田 勝久	副会長 内海水先区水先人会会长	
"	根本 正昭	副会長(株)商船三井執行役員	
"	世良 邦夫	公益社団法人 神戸海難防止研究会 専務理事	
"	山本 幸典	"	常務理事
オブザーバー	竹口 信和	大阪湾水先区水先人会会长	
"	小島 茂	(社)日本船長協会会长 (代 今西 邦彦 技術顧問)	
"	佐々木 真己	川崎汽船(株)取締役専務執行役員 (代 松島 豊 関西支店副支店長)	
"	秋山 信	日本郵船(株)関西支店長 (代 迫田 孝広 関西支店長代理)	
"	須貝 壽榮	元神戸地方海難審判庁庁長	
"	改発 康一	神鋼物流(株)顧問	
事務局	板坂 茂良	公益社団法人 神戸海難防止研究会総務部長代理	
"	竹田 和子	"	事業部員

4 議題

- (1) 業務報告等について
- (2) 常任委員の委嘱について
- (3) その他

5 資料

席上配布

資料1 業務報告等

資料2 常任委員名簿

6 議事概要

事務局から、委員の出欠確認の後、福間会長の挨拶があり、引き続き議事に入った。

事務局から資料について説明し、議題について種々意見交換を行った。

以上

○ 事務日誌抄

(H25. 1. 1～H25. 3. 31)

月 日	曜 日	時 間	委 員 会 名	実 施 場 所
1. 15	(火)	1430	平成 24 年度第 8 回船積危険品研究委員会	商船三井ビル 7 F 会議室
1. 16	(水)	1200	第 7 回業務運営会議	商船三井ビル 7 F 会議室
1. 25	(金)	1500	第 7 回月例会	こうべまちづくり会館
1. 29	(火)	1330	平成 24 年度神戸港港湾計画一部変更に伴う航行安全対策調査委員会	パ レ ス 神 戸
2. 4	(水)	1330	B 社大型原油タンカー船型大型化に伴う航行安全対策調査第 1 回委員会	メリケンパークオリエンタルホテル
2. 12	(火)	1300	平成 24 年度第 9 回船積危険品研究委員会	商船三井ビル 7 F 会議室
2. 15	(金)	1500	第 8 回月例会	こうべまちづくり会館
2. 19	(火)	1330	A 社 LNG 船着離桟橋に係る航行安全対策検討調査第 2 回検討部会	ラ ッ セ ホ ー ル
2. 20	(水)	1200	第 8 回業務運営会議	商船三井ビル 7 F 会議室
2. 21	(木)	1330	大阪湾における交通流交差海域等の安全確保に関する調査研究第 2 回委員会	神戸ポートタワーホテル
2. 22	(金)	1330	B 社大型原油タンカー船型大型化に伴う航行安全対策調査第 2 回委員会	パ レ ス 神 戸
2. 26	(火)	1330	平成 24 年度津波来襲時の避難船舶二次災害防止対策調査第 2 回委員会	メリケンパークオリエンタルホテル
2. 28	(木)	1200	B 社大型原油タンカー船型大型化に伴う航行安全対策調査ビジュアル式操船シミュレータ実験	株 日本海洋科学 川崎
～3. 1	(金)	1700		
3. 7	(木)	1400	平成 24 年度近畿四国地方海難防止強調運動推進連絡会議地区推進母体連絡会議	神戸第 2 地方合同庁舎
3. 11	(月)	1330	A 社 LNG 船着離桟橋に係る航行安全対策検討調査第 3 回委員会	メリケンパークオリエンタルホテル
3. 19	(火)	1330	大阪湾における交通流交差海域等の安全確保に関する調査研究第 3 回委員会	神戸ポートタワーホテル
3. 21	(木)	1200	第 9 回業務運営会議	商船三井ビル 7 F 会議室
3. 22	(金)	1300	平成 24 年度第 10 回船積危険品研究委員会	商船三井ビル 7 F 会議室
3. 27	(水)	1330	B 社大型原油タンカー船型大型化に伴う航行安全対策調査検討部会	メリケンパークオリエンタルホテル
3. 28	(木)	1500	第 9 回月例会	こうべまちづくり会館
3. 29	(金)	1330	平成 24 年度津波来襲時の避難船舶二次災害防止対策調査第 3 回委員会	メリケンパークオリエンタルホテル